VOLUME.
5

【漫画】小宮利公
【原作】笑うヤカン
キャラクター原案●新堂アラク

魔王の始め方
THE COMIC

ヴァルキリーコミックス

【漫画】
小宮利公

ついに来ました英雄対ドラゴン。
古今東西、伝説や神話の定番ですね。
一度はきちんと描いてみたかったので気合入れて描きました。
バトルに始まりコメディ、お色気、反乱と振り幅激しい5巻、
お楽しみください。

【原作】
笑うヤカン

英雄たちとの戦い、ついに決着!
小宮先生の迫力のバトルシーンを、どうぞご堪能ください!
個人的に今巻の見どころは竜と牛です。
エルフの森も焼くよ。

ヴァルキリーコミックス

魔王の始め方

THE COMIC

5

【漫画】小宮利公 【原作】笑うヤカン
キャラクター原案◎新堂アラタ

CONTENTS

valkyrie comic series - how to book on the devil the comic
comicwork by komiya toshimasa - story work by warau yakan
presented by kill time communication

5

Step.30 ——— 5
Step.31 ——— 29
Step.32 ——— 47
Step.33 ——— 67
Step.34 ——— 91
Step.35 ——— 115
Step.36 ——— 133
Step.37 ——— 153
Step.38 ——— 173

思わなかったな
これは当たりみたいだな
いざとなったら別に倒しても構わんのだろう？
構うわよ馬鹿っ！
フォローねえ…
頑張ってください！
まあいざとなったら私たちがフォローする気楽に行ってこい
後はあたしの仕事か
落とし穴の下が槍衾や煮えた溶岩だったらって思わなかったの
それにしても随分深いですね…
そういう時のナジャの勘って当たるのよ
びっくりしたあ…

相手は
真竜なのよ
亜竜や眷属(けんぞく)
じゃない
本物のドラゴン

私たちで
勝てるような
相手じゃないわ

そんなに強いの？
真竜なんて
会ったこと
ないからな
わかんないけど

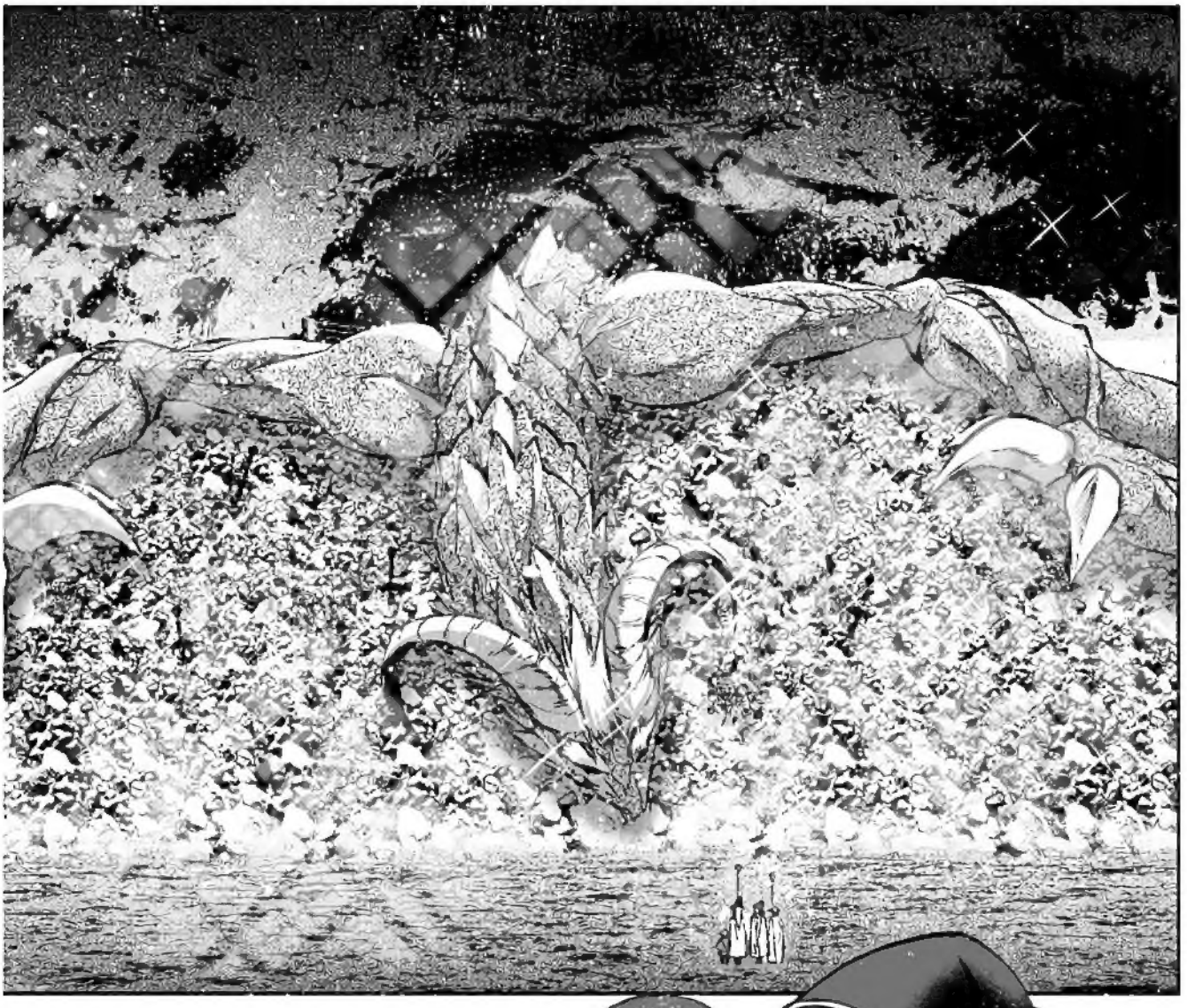
あたしたちも
ないです

そりゃあ…
強いでしょう
ユニスより強い
英雄王を倒す為に
呼ぶんだから

お伽話じゃ
よく聞く
話だけどなあ

ユニス様
よりも…か

床見えたよ

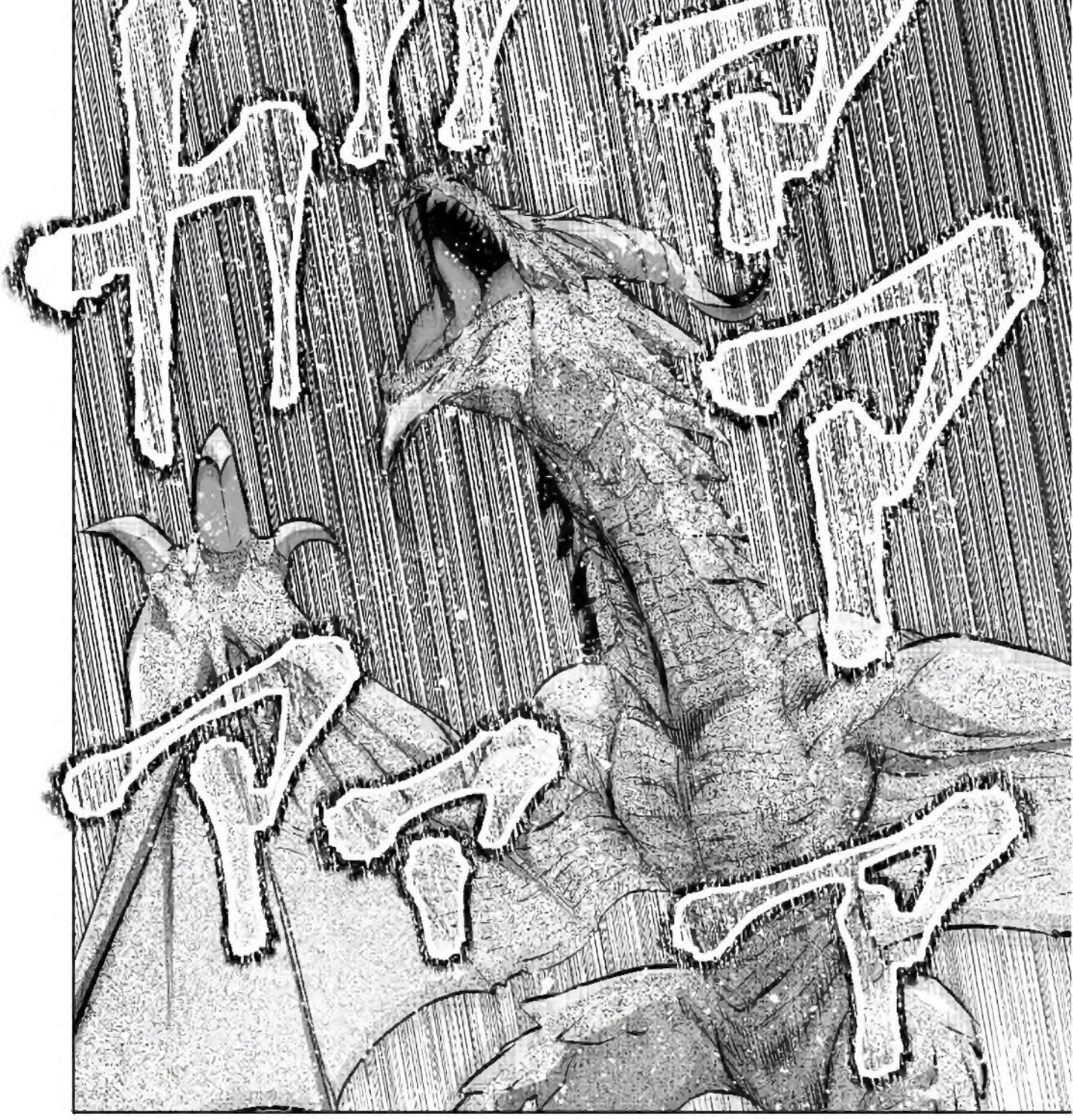


グルルル…

こ…
これは…

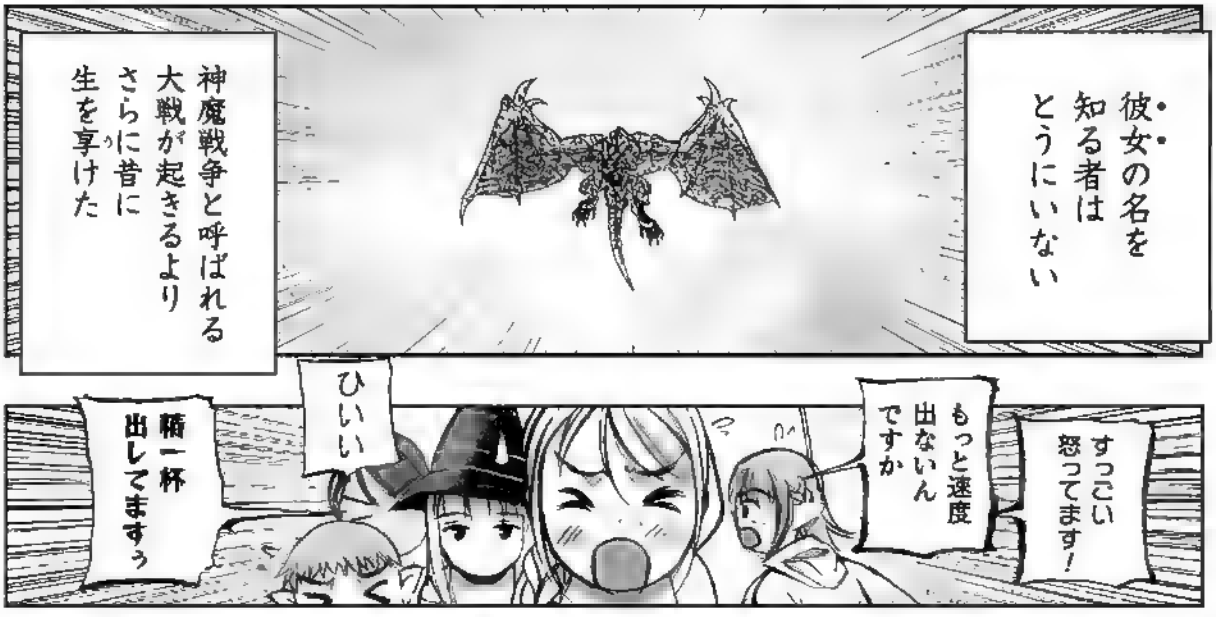
確実に…殺される…
う…うん
ファロ…お前の出番だったな
四人はさっきまで軽口を叩いてたことを後悔した

ズズ…
……
うーん
……
…
!?
ゴォッ
…し
死ぬかと
思った…
こっちも
同じ気持ちだ
行きましょう
モタモタしてる
暇はないわ
いざと
なったら
ナジャが倒して
くれるらしいから
私が悪かったから
勘弁してくれ
…
……
……！

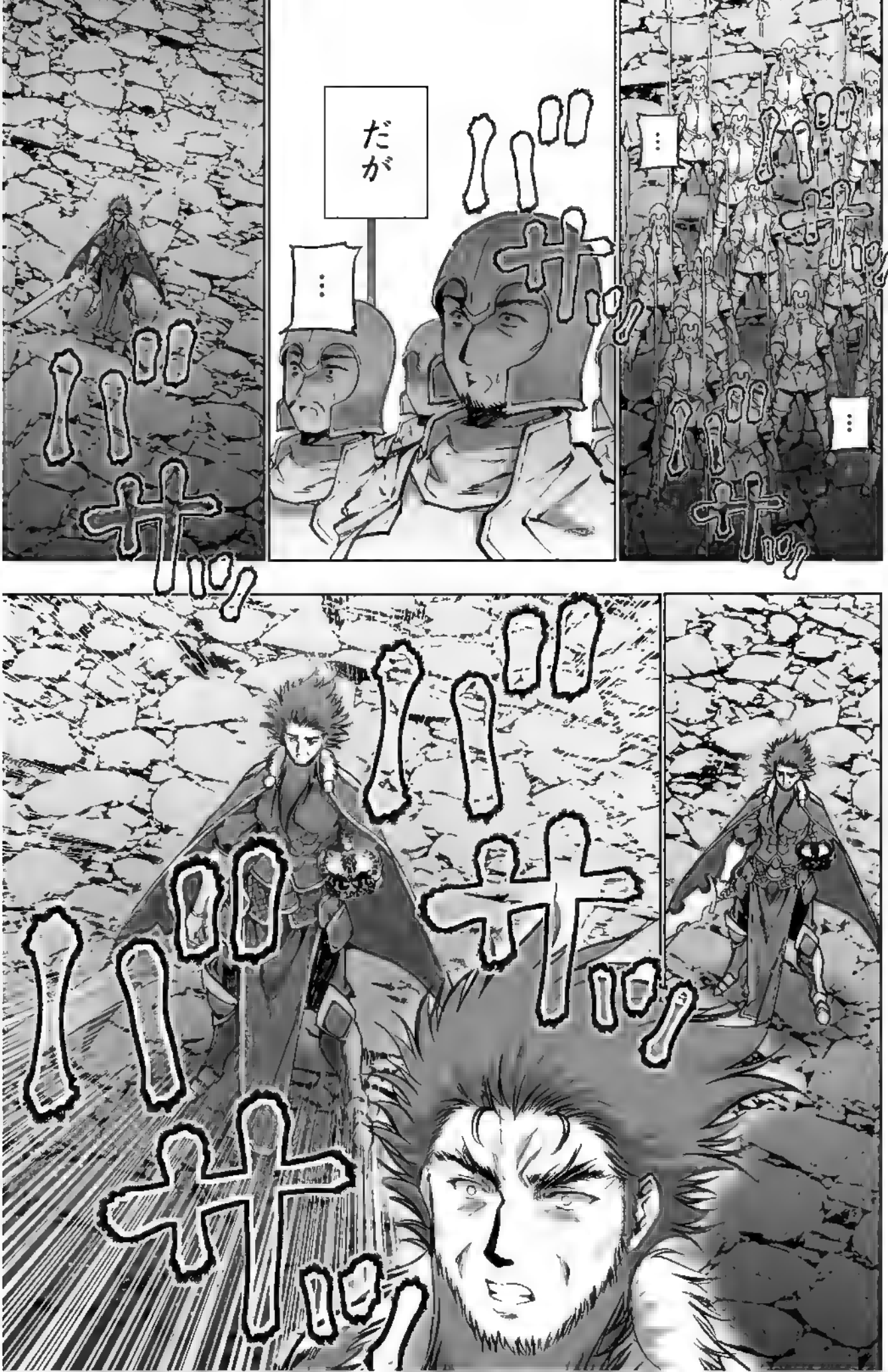


やばい！
バレた！
どうしよう
追いつかれちゃう

みなさん！
ミオ！
乗ってください！
ボゴオッ
誰だ…！
我が宝を盗んだ者は…！


彼女の名を
知る者は
とうにいない
神魔戦争と呼ばれる
大戦が起きるより
さらに昔に
生を享けた
すっごい
怒ってます！
もっと速度
出ないん
ですか
ひいい
精一杯
出してますぅ

数少ない仲間は
その戦争で命を落とし
残った仲間も英雄との
戦いで死んだ
数少ない同族の中で
彼女はいつしか
最も齢を重れた
ドラゴンと
呼ばれるようになった
すでに数千年を生き
自分の集めた財宝に
囲まれながら
幸福に暮らし
終末の時を迎えられれば
満足だったのだ


だが
…
…
…
…

貴様か！

我が宝を
盗んだ
不届き者は！

これが伝説の…!!
真竜…!!

古竜（エンシェントドラゴン） メトウス!

ゴゴゴゴ
ズオン

メトウスは
神魔の戦いよりも
さらに遡り
数千年を生きる
まさしく
最古にして
最強の竜

見せて
もらおうか
お前の
〝英雄〟としての
魂がどれほどの
ものか

こ…これが
ドラゴン…！
む…無茶だこんな…
者ども退けえ！
民を退避させよ！
!?
し…しかし
陛下！
俺に恥をかかせる気か
…
…
陛下…！

我が名はウォルフ！
ウォルフティール・
セヴラン・ル・エラ・
グランディエラ一世！
古き竜よ！
いざ尋常に
勝負だ！

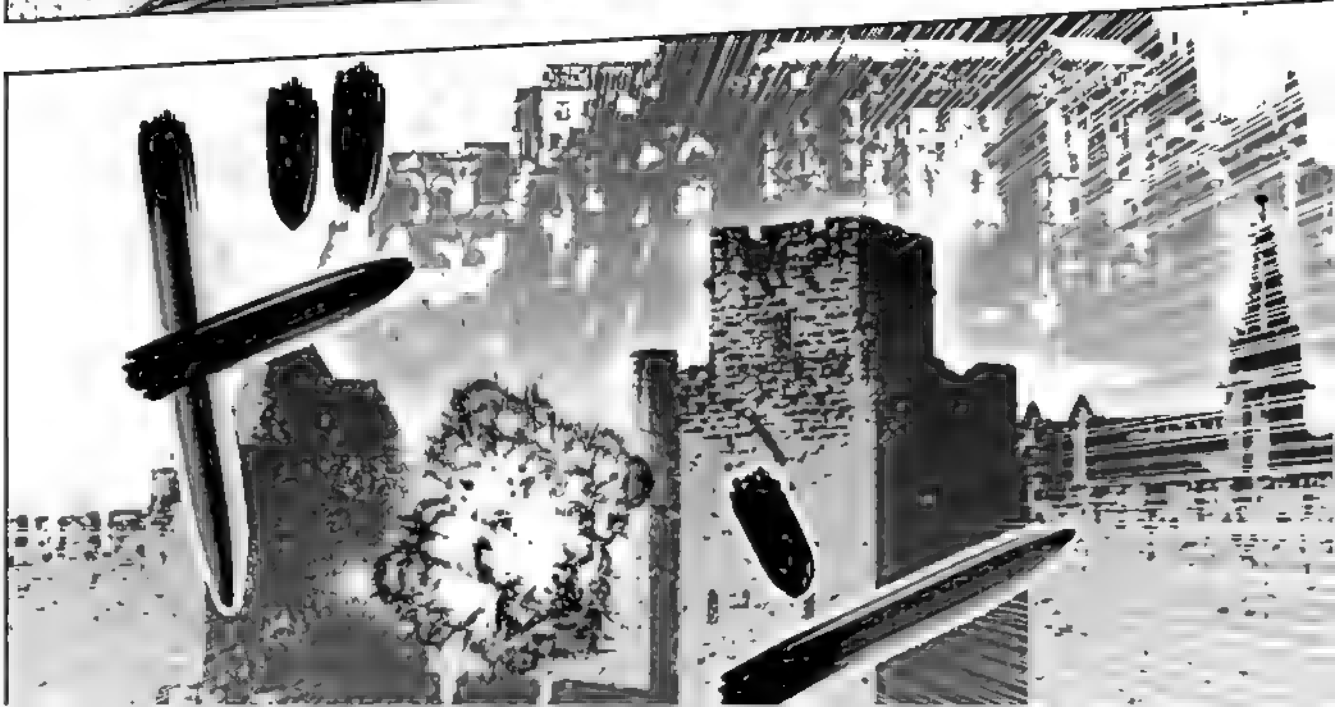
ガオ

退避!
退避い!
巻き込まれるぞお!
ゴゴゴ

フハハハ
フ…

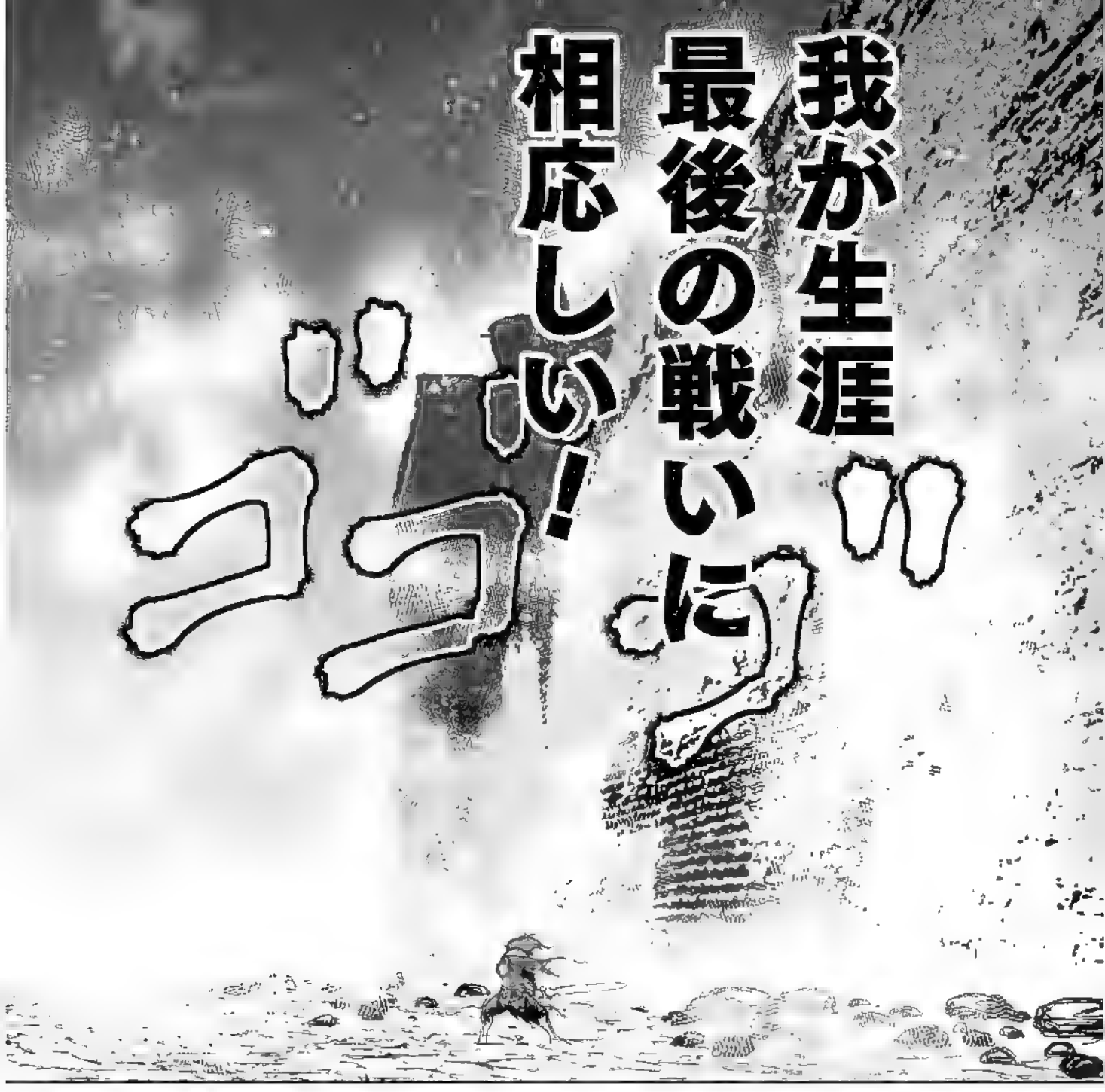
おおお！

おお!!
ドドドドド
ヒイイイイ…
刃が…
通らん!
!!



ふ…ふふ…ふ
さ…
流石は真竜…！

これだ…
これこそ俺が求めていた！


我が生涯
最後の戦いに
相応しい！
ゴゴゴ

Step30 End

Step.31

『巨人の腕（グレンデル）』
（筋力強化）
『火竜の血脂（ファフニール）』
（耐性強化）
『黄金牝鹿の蹄（ケリュネイア）』
（速度強化）
『輝く剣（クルージーン）』
（武器強化）
『不死骨の卵（コシチェイ）』
（持続強化）

強化魔術を
ありったけ
使う気か
さすがに
真竜相手に
生身で戦うほど
馬鹿ではないか

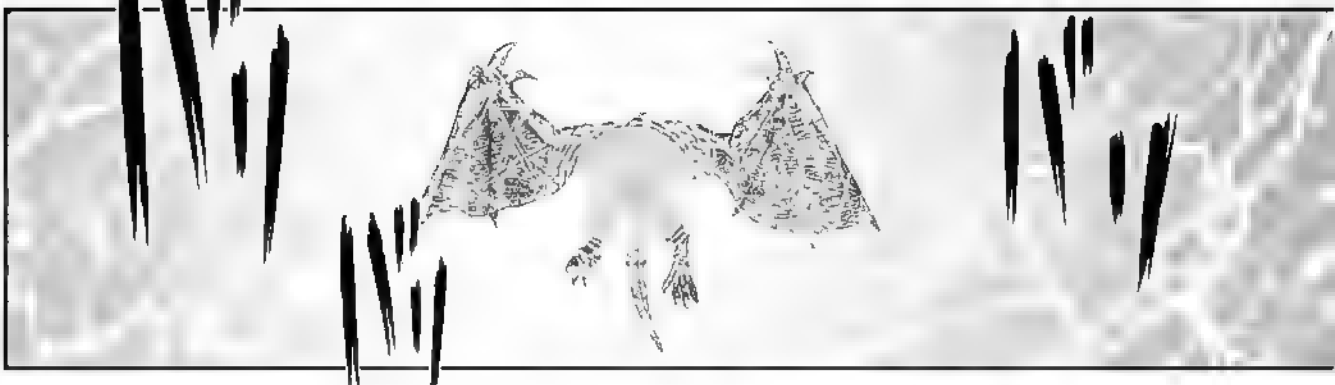
!!
飛んだか！
ゴオオ
「翼の具足」（クラリア）（飛行）
空を飛ぶ相手に地面で戦うのは圧倒的不利…

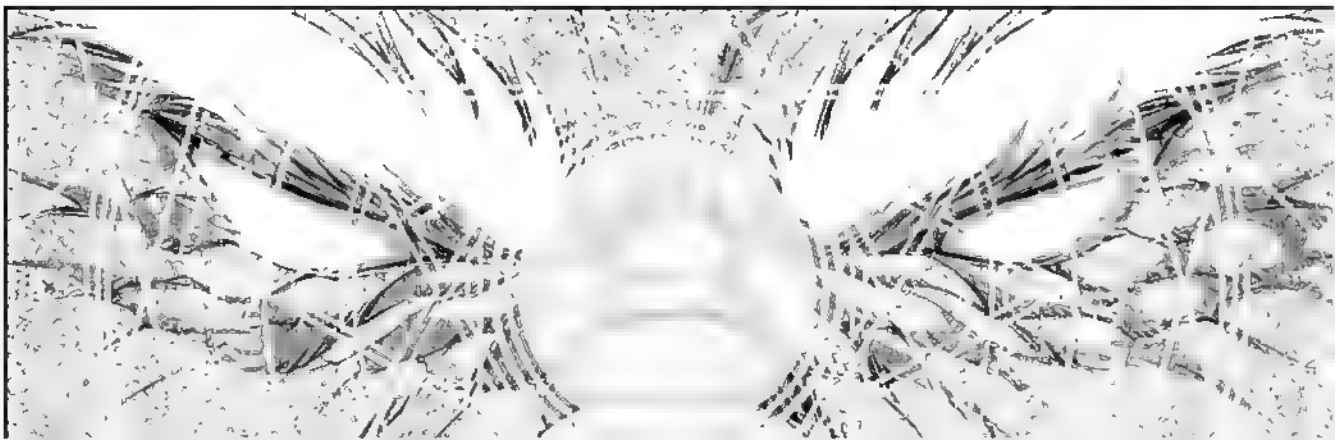
いくぞ
メトゥス！
ビュオッ
ビュオッ
ビュオッ
ビュオッ
ビュオッ
ビュオッ

おお！
やったか？

ゴオオオオ

硬い…！
これだけ攻撃して
手傷を負わせ
られんとは
む！





いかん！
オウル軍
グランディエラ
軍に告ぐ
全軍一塊になって
地面に伏せよ！

この声は…
魔王？

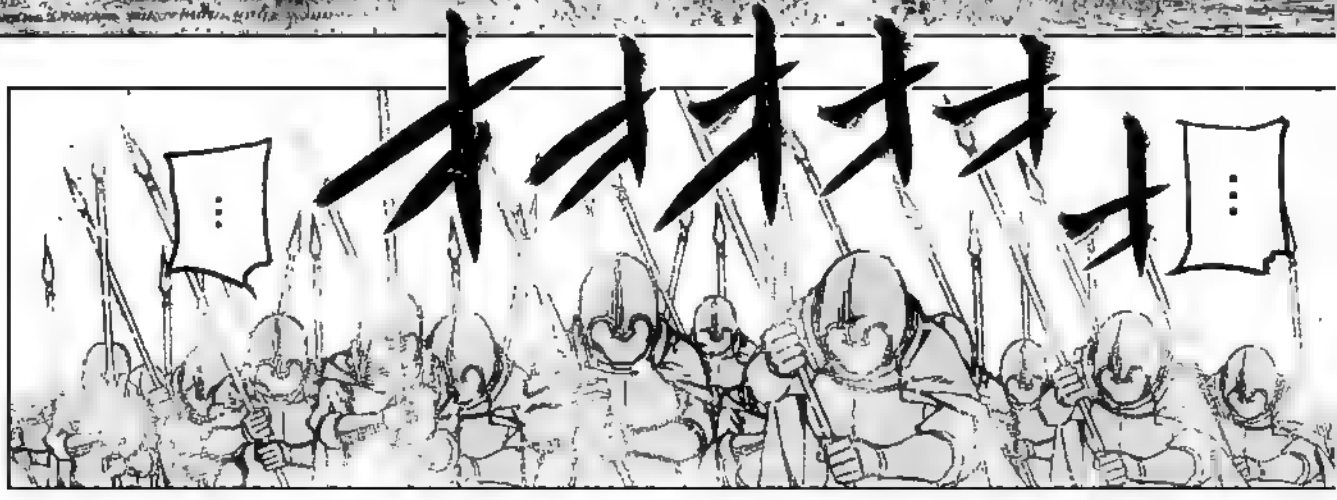
ザワ…
し…しかし
なぜ
奴が…？

さっさと
しねえか
てめえら！
は…
はいい
カッ!!

Too Much

うわあ
ドドドドド
ドドドドド
ドドドド

ゴゴゴゴ

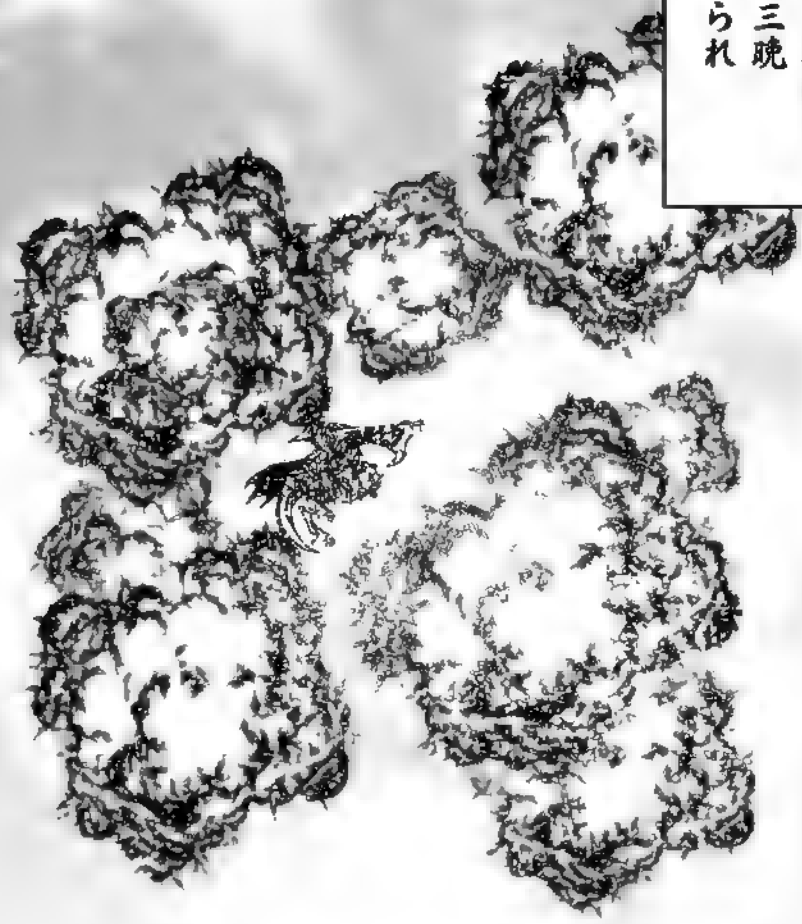

オオオオ
…
…

オオオオ
あ…あれ？
お…俺たち
生き…てる？

ゴゴゴゴ
ズズズ
まさか…護ってくれたのか？奴が…
なぜ…

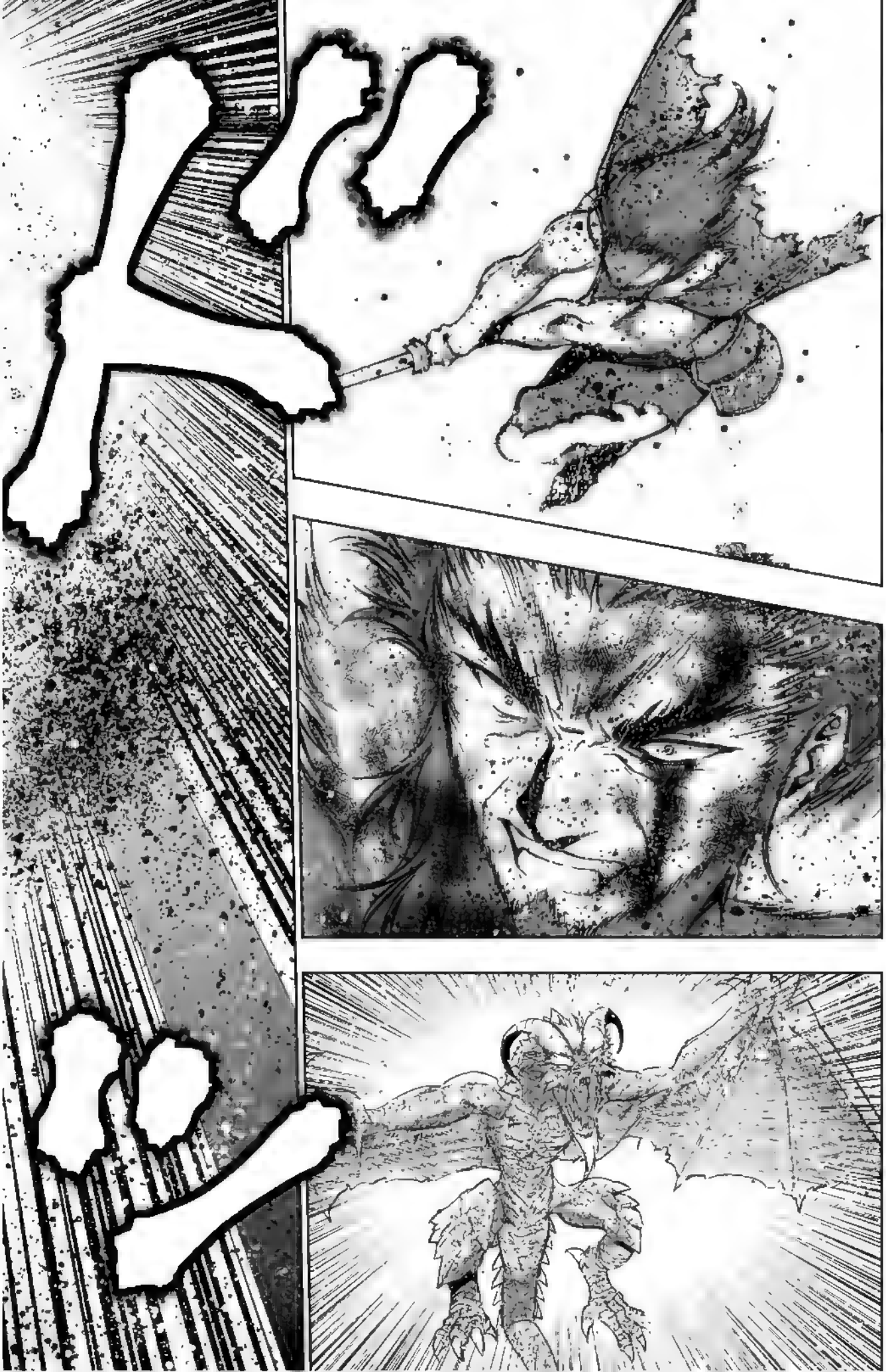
……
オオオ
ふん
あの男
味な真似を…
だが
これで
思う存分
戦える！
ゴオオオ

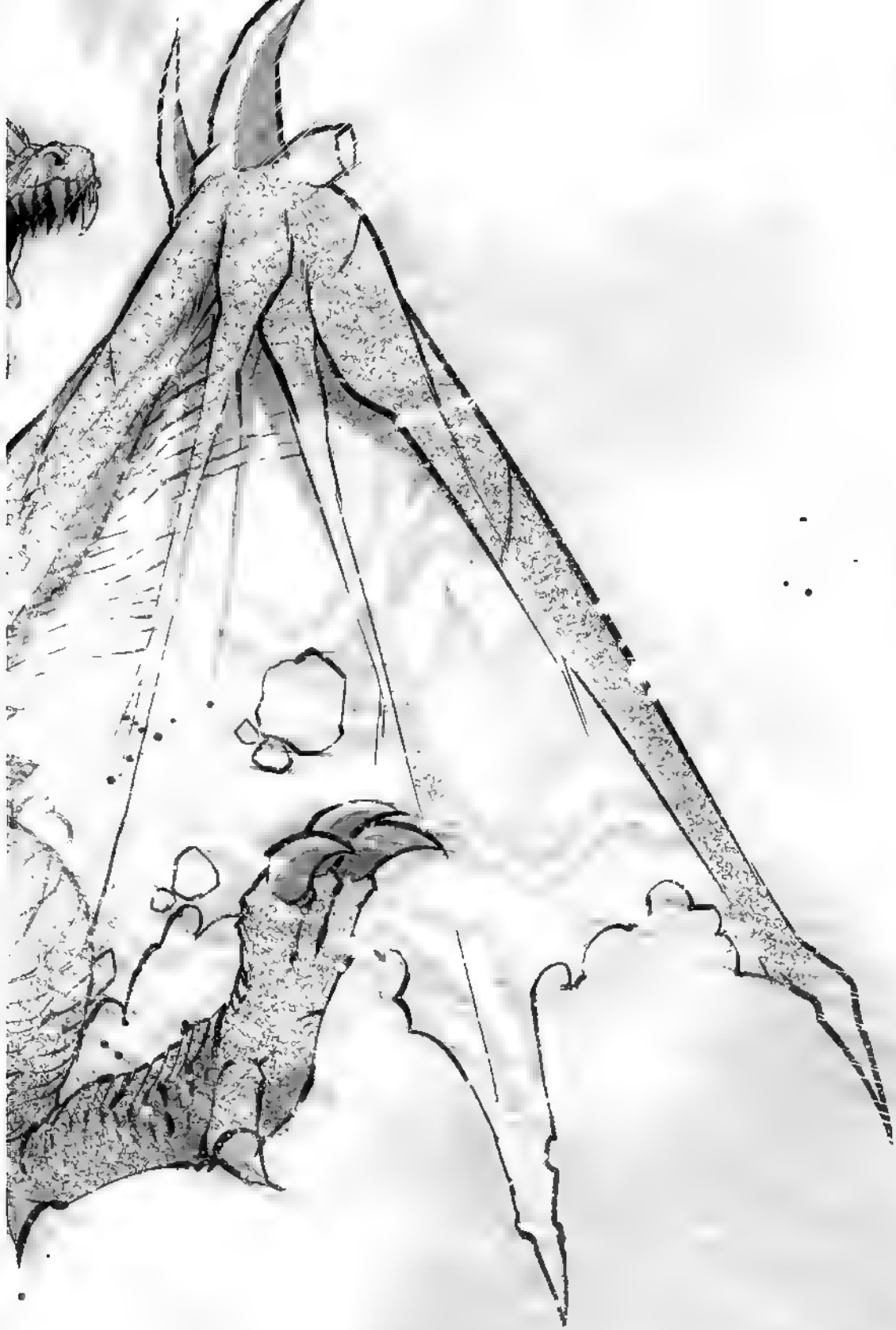
両者の
激しい戦闘は
三日三晩
続けられ



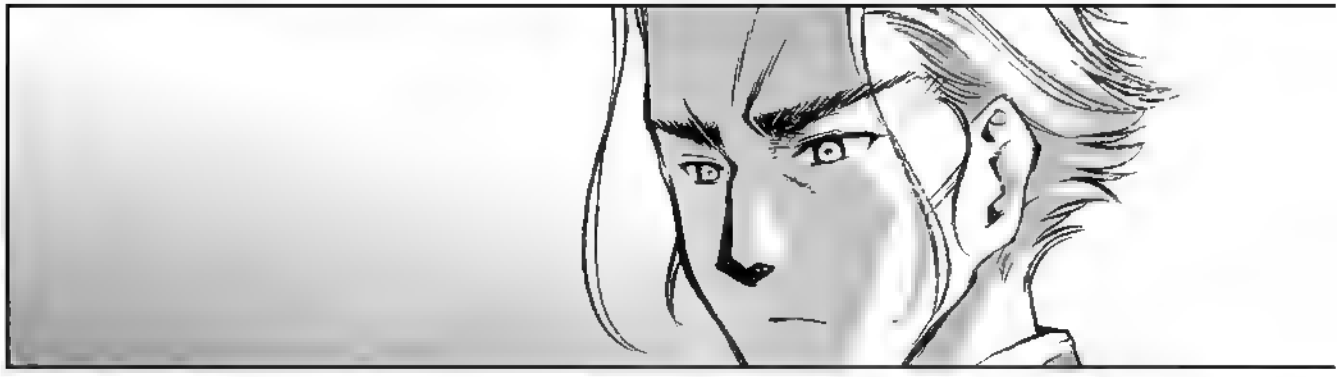
四日目の朝
勝敗は決した

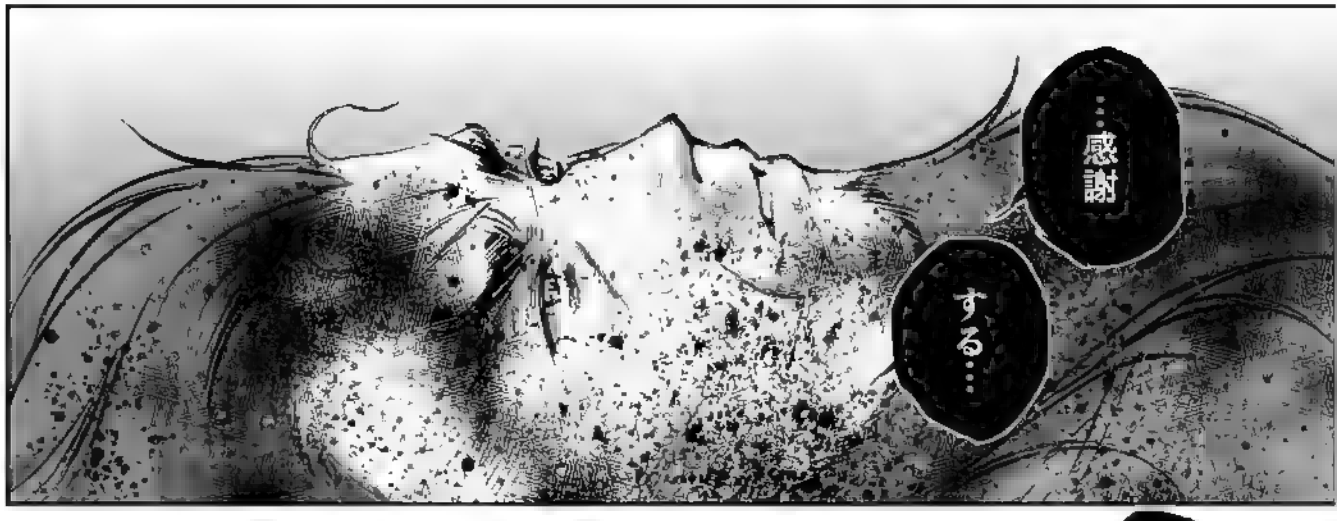
Step31 End





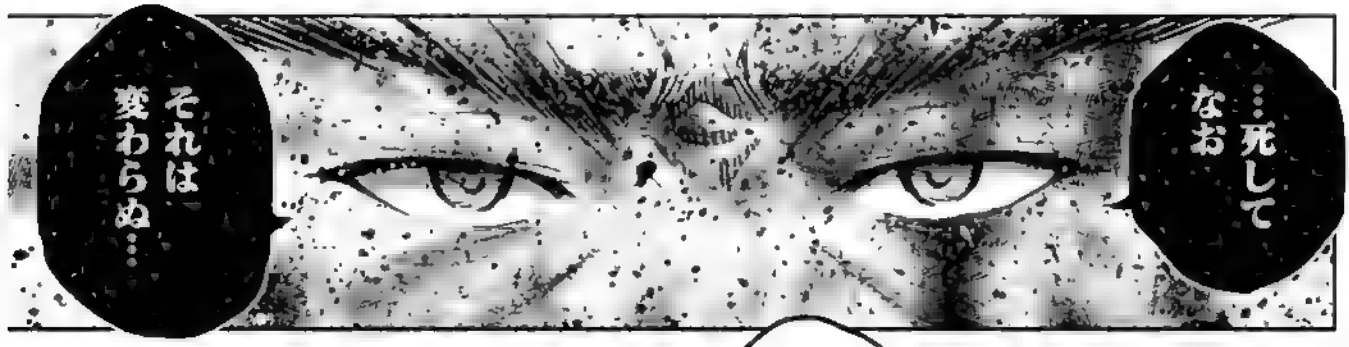
ウォルフ!!
ウォルフ!!
ウォルフ!!
ウォルフ!!
ウォルフ!!
ウォルフ!!
ドン!!



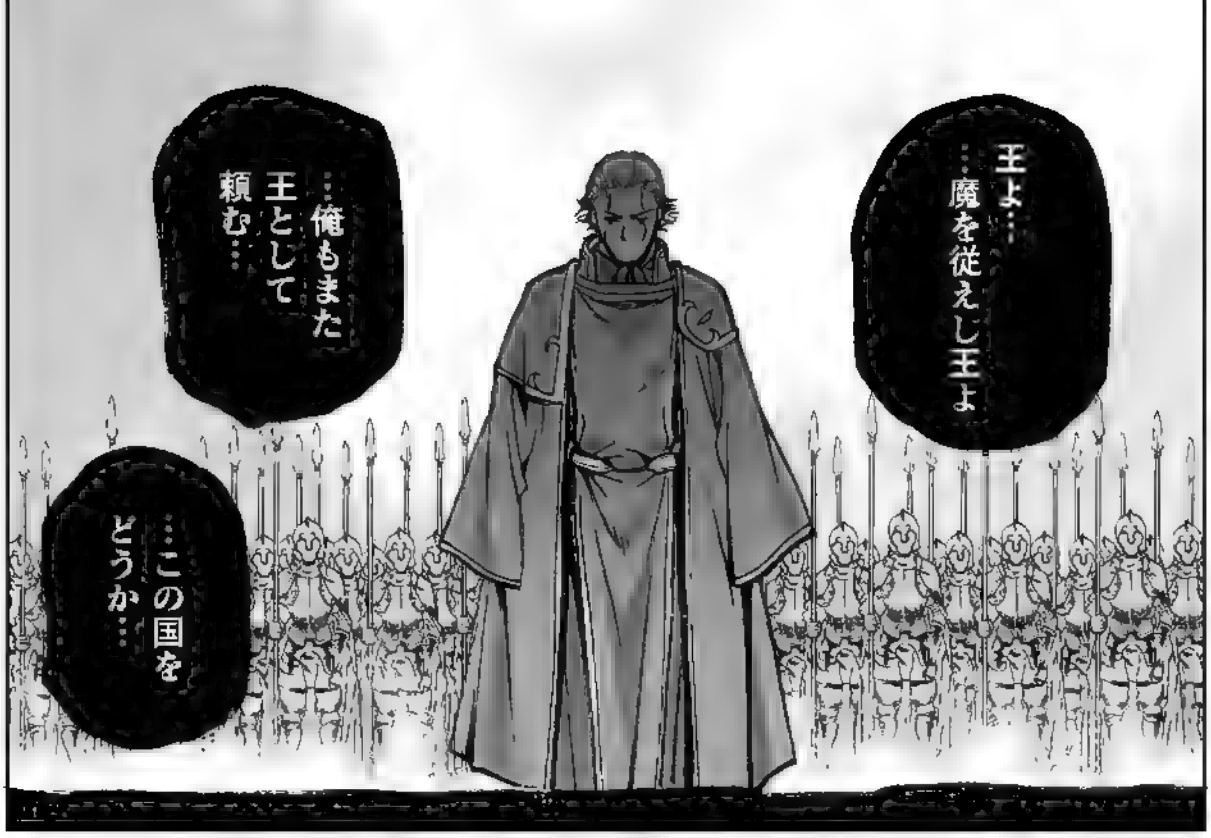

…感謝
する…

我が力…
…全身全霊をもって…
相対できる…
最高の敵を…
…ずっと俺は待っていた…

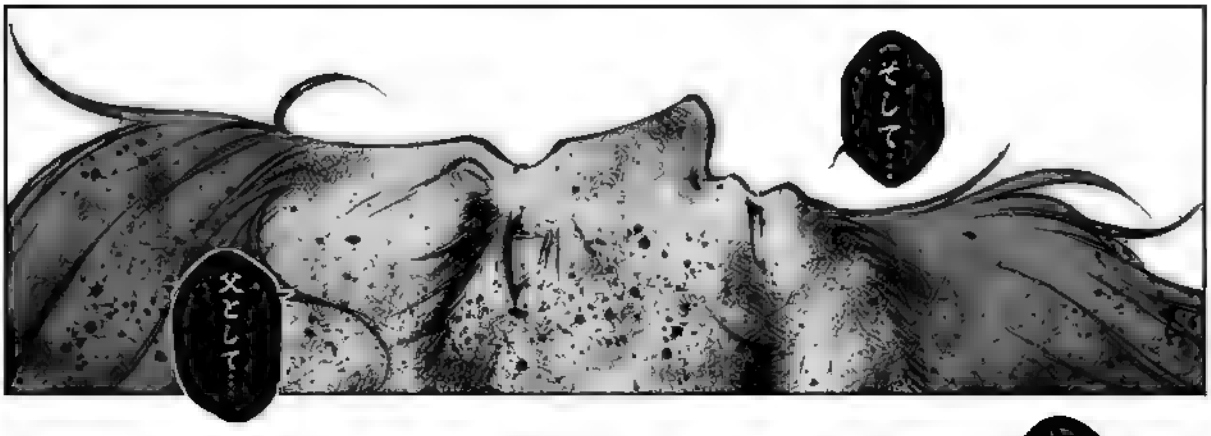
そんなことの為に
娘と息子を
殺したのか
…われらは
英雄などと…
貴様も知って
おろう…
…もて囃されては
いるが…
…所詮
天の奴隷よ…


…死して
なお
それは
変わらぬ…

ならばせめて
安らかな
死をと？
それは貴様の
自分勝手な
思い込みだ
そうかも…
…しれぬな


王よ…
…魔を従えし王よ
…俺もまた
王として
頼む…
…この国を
どうか…

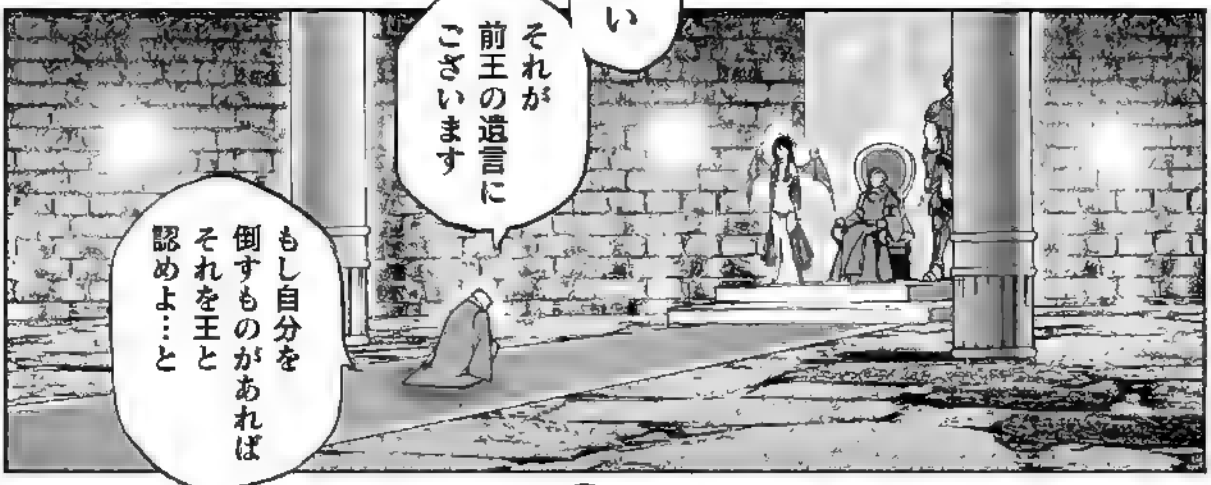
ああ
悪いよう
にはせん
任せて
おけ


そして…
父として…

た…のむ…
どうか…
娘を…
…

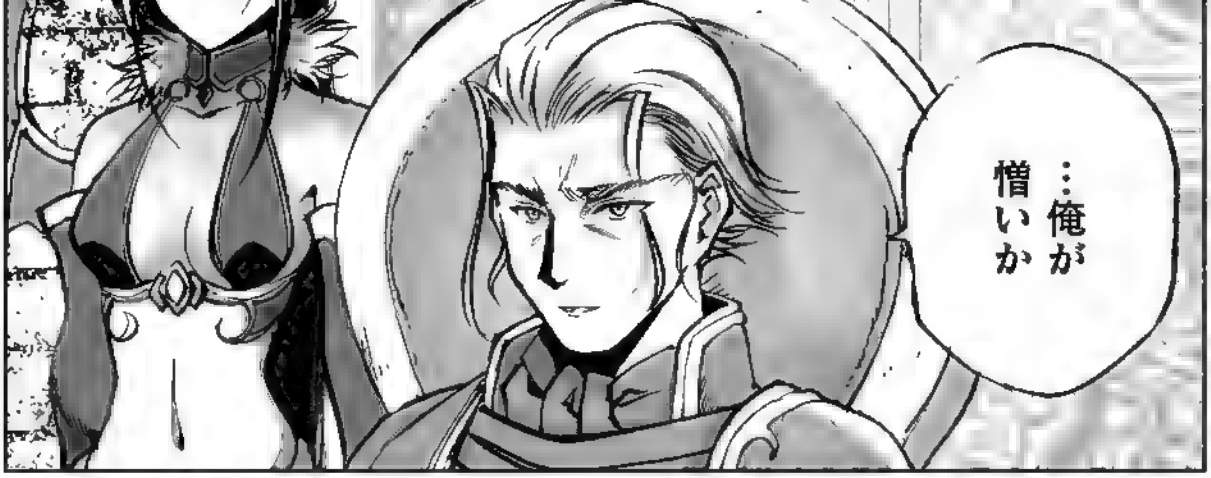
…死ぬなら
最後まで
言いきって死ね

認めるだと？


はい
それが
前王の遺言に
ございます
もし自分を
倒すものがあれば
それを王と
認めよ…と

ごもっとも
ですが
前王は…
…ウォルフ様は
そうは仰(おっしゃ)らない
でしょう
俺が倒した
わけではない

知略如きに
我が武が負けた
のであれば
それは敗北に
他ならない
…と


…俺が憎いか

それはもう
…

我が主の仇
姫様の仇
殿下の仇
どれか一つでも殺すに値する憎しみが三つも重なっておるのです
何度殺しても飽き足らぬほど憎んでおります

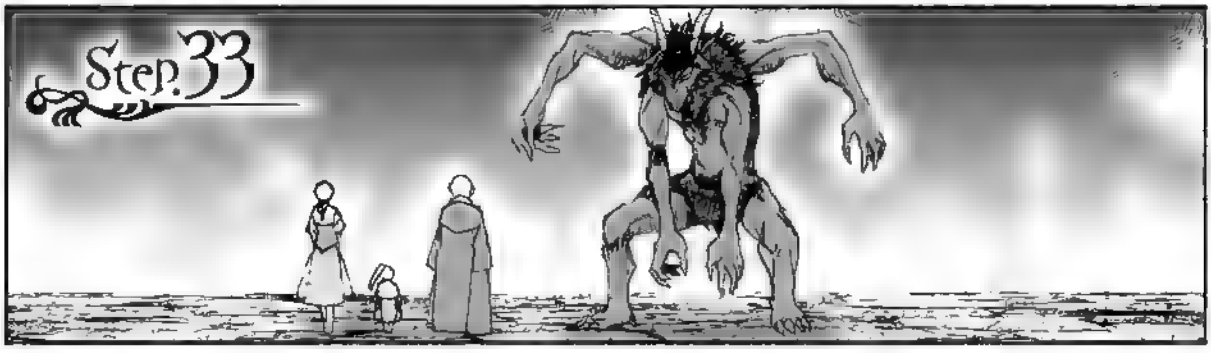
国を盗られたことは仇に入らぬか
然様なものは亡くなられた方々の命に比すればないも同然です

…蘇らせる
方法があると
言ったら
どうする
……！
…お戯れを
死した英雄の
魂は天に
召し上げられ
蘇ること叶わぬと
仰ったのは
あなた様では
ございませんか
その通りだ
…ならば
迎えに行けば
いいだけの話だ
迎えに…と
申しますと？

決まっておろう
ギッ

Step32 End

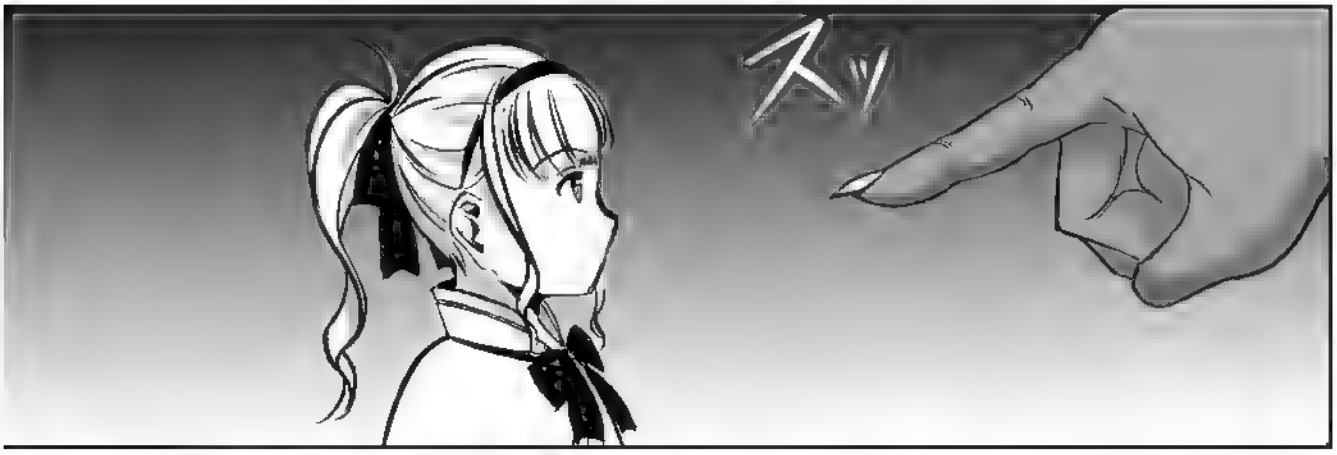
俺の名前は
ローガン
下級悪魔(レッサーデーモン)だ
ここで少し時を遡(さかのぼ)って俺が召喚された時の話をしてやろう


Step.33

それで…
オウルの旦那よ
俺は一体何を
すればいいんだ
最終防衛
ねえ…
うむ お前には
基本的にこの迷宮の
最終防衛を頼みたい
わかった
任せておけ

まぁお前の力が必要になることはそうはあるまい
普段はマリーの目付役をしていろ
!?
この俺に子守をしろというのか…！
プルプル
プルプル
そうだ
あ…！
…りがとうございます！
……

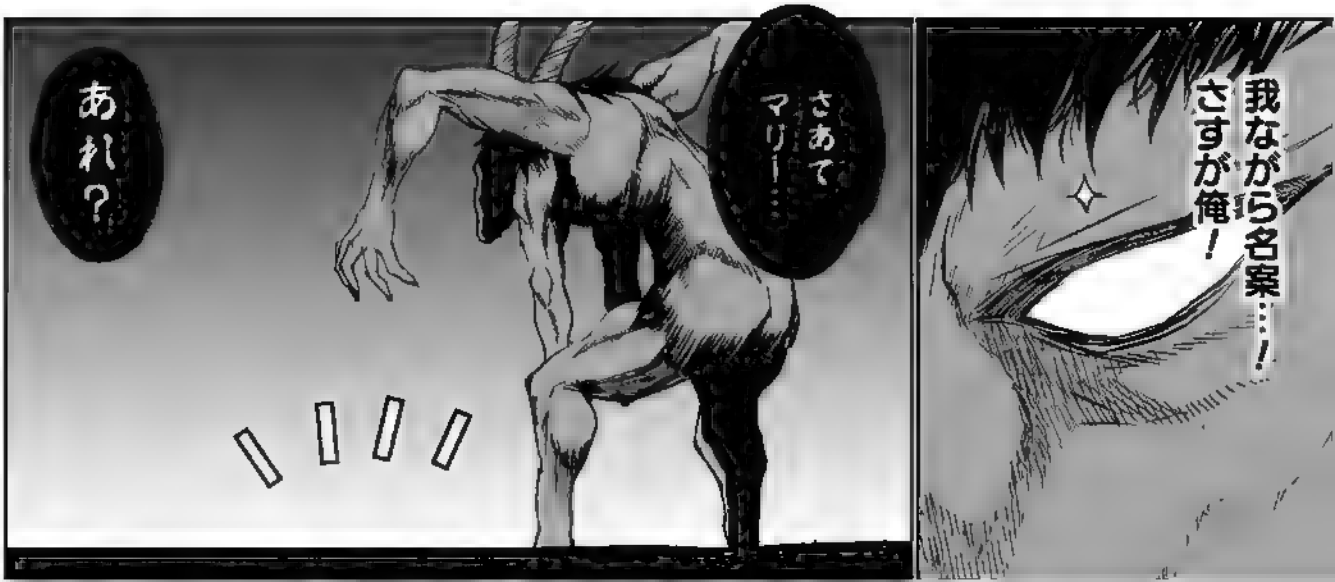
迷宮を
守るときは
改めて呼ぶ
ゴオン
さて
いったか


スッ

まあ 契約で縛られてるから当たり前か
やっぱり駄目か
なあに？
迷宮の住人に危害を加えることはできない

俺はローガンだ
よろしくな
マリー
うん
よろしくね！
やはり害意さえ
なければ
触れられる
らしい

こんな御馳走
眼の前にして
週一滴二滴の血で
済まそうなんて
冗談じゃねえ
要は害さえ
加えなければいい
危害を加えず
マリーという存在が
希薄になり
消え去るまで
その魂を飴玉のように
しゃぶり尽くす…！


我ながら名案…！
さすが俺！
さあて
マリー…
あれ？

おいまだ話してる途中だろうが！
とてて
こっちだよー
追いかけっこか嫌いじゃないぜそういうの
！
な……
なんだこりゃあ……
こっちだよー
そこか逃さねえぞ
!?
ど
ど
ど
こっちだよー

ど
ど
ど
ど
だ
だ
だ
だ
はあ
はあ
こっち
こっち
そこか
逃さねえぞ！
ちがうよー
ここだよー
なんだ
どこいった！
おかしい
なぜ捕まらねえ

一体
なんだって…
いや
待てよ
…そうか
そういうことか
そこかしこに
〝転移の罠〟が
仕掛けてあるんだ
マリーは迷宮で
遊んでるうちに
その位置を覚え
やがったんだ
ひょこ

って
そこかよ
ぶらーん

大物だね
キミ！
つぎは
なにして
あそぶー？

いや…そうだな
じゃあマリーちゃんの
願いを叶えてあげよう
ねがい？
そう 魂を
くれるだけで
なんでも願いを
叶えてあげよう
なんでも
なんでもだぞ
子供なんて
甘い言葉で
一発だぜ
なんでも…
じゃあね
じゃあね
マリーちゃんね
たくさんに
なりたい！
た…
たくさん…？
うん たくさんに
なってマリーちゃんと
まりーちゃんで
あそぶの
それは要するに
友達が欲しい
ってことだろ？
出してやる
どんな奴が
ほしい？
んーとね
じゃあ…

ばん！
もってけれった！
もって…なんだって？
もっけれてった！
…さっきと違わないかというかなんだそれ
もってけれったはね～
がおー
がおー
くちががおーっててがーさんぼんであしがんー
ろっぽんでーはねがばさ～ってじゅうにまい
魔界にもいねーよそんな化け物！
むりなの？
うっ…
ずーん
なんでもっていったのに
じゃ…じゃあ！
ううう…
食べ物！食べ物はどうだ！
なんでも出してやる
ほんとかなあ…
本当だ本当！
今度こそ絶対なんでも出してやる

なんでも？
ろーがんは
なにたべたいの？
そりゃ多論(もちろん)
お前の魂だ
ああなんでも
いいぞ！
好きなもの食え
ただし
出したものは
ちゃんと
食べろよ
じゃあそれ
エ？
ぽわ～
ちょ…
ま…！
わわわわ
すぽっ

契約の内容は
『マリーの魂を
マリーに与える』こと…
その対価は彼女の魂である
厄介なのはマリーが
ローガンの欲しいものを聞いて
『それ』だと指定したことだ

単に『マリー自身の魂』
というだけなら
ローガンが彼女の魂の
大部分を奪い
ほんの少しだけ返す
ということもできる

だが今回の場合
それが仇になった
与えるのは
『ローガンが欲しいと
思ったマリーの魂』なので
彼が奪う分だけ
彼女に返さねばならない

しかも量の指定がないため
この契約には際限もない…
つまり別の契約で
マリーの魂を奪ったとしても
それを欲した時点で
ローガンはマリーに魂を
返さなければならないのだ

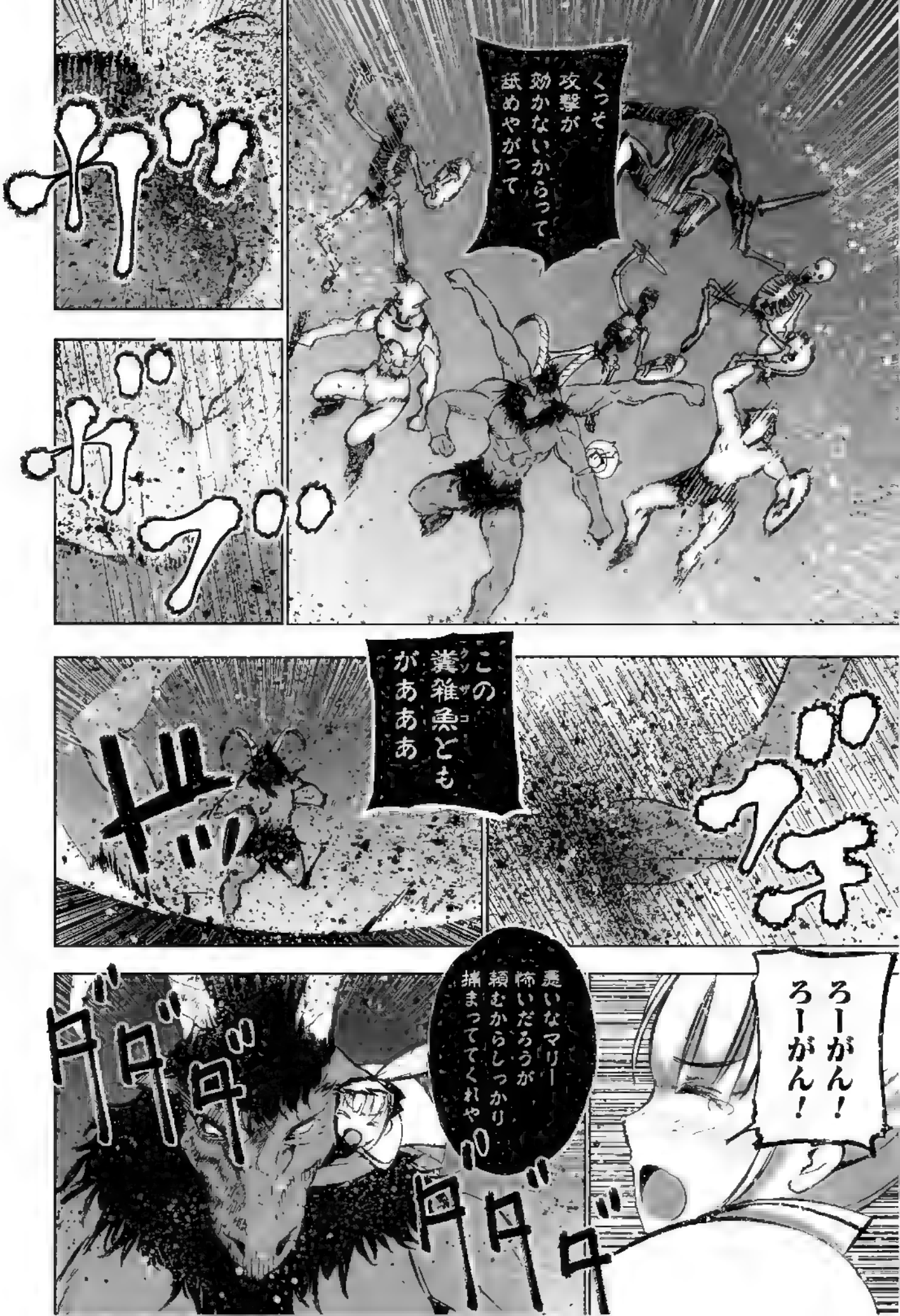
あっ
あ
パン パン
ちっくしょおおおお!
あぁん
ドン ドン
ドン ドン
きもち
おお おお
さあな
なあに?
あの雄叫び
今日も
よかったよ
ふっ
そうか

…
何見てやがる
ニクゲーン
ニクゲーン
ニクゲーン

追いかけっこしてるうちに迷宮の中心部から離れすぎたか…
ニクゲーン
ニクゲーン
ニクゲーン

失せな

!?
マジかよ…
マリー
逃げるぞ
掴まれ
『迷宮に住む者を
害してはならない』
OK
畜生
いくら契約だから
ってこんな奇象無象まで
守れたあ聞いてねえぞ！
誰がてめえら
なんかにマリーを
渡すかよ！


くっそ
攻撃が
効かないからって
舐めやがって
この
糞雑魚(クソザコ)
どもが
あああ
ろーがん！
ろーがん！
憎いなマリー
怖いだろうが
頼むからしっかり
捕まっててくれや

!?
ドドドド
もう俺の方じゃ掴んでてやれねえからな！
ちっ
失敗したぜ
さて……そろそろ最低を決めろか

ぉ゛ぉ゛ぉ゛ぉ゛

安心しな
これでも俺にだって
プライドくらいは
あるんだ
ろーがん!
お前だけは
無事に
守ってやる

残った全魔力を
ふり絞れば
マリーをオウルの
もとに送ること
くらいなら…だが
俺は魔界へ逆戻り
…情けねえが
契約も果たせない
マヌケと
呼ばれるよりは
マシだ
ぬうううう

ろーがん
ちっちゃくなってる
気にすんなしっかり立ってろ
ブオン
ブオン
やだ！
バッ
動くなよ
ブオン
あーマリーそうやって抱きしめてくれるのは嬉しいんだがよ
今は結構非常事態でな
ブオン
そうされるとお前を逃してやれねえちょっと離れてくれねえか
今すぐおうちに帰してやるから離れてくれ
おい！
バッ
こないで！

こわくなんか
ないもん
お前
まさか…
く
く
く
く
くはは
はは
はは
守るってのか!?
お前が! 俺を!
そんな
小さな身体で
俺の
千分の一も
生きて
ないくせに!

叶えたぜ
マリー
お前の願い
これでタダ働きか…
全く冗談じゃ
ねえぜ

ろー
がん
さあ存分に俺を守ってくれ
え？

いっくよー
よーし！
せーの
ぶぶぶぶ
えい

ゴゴゴゴゴ
あ
おうるさまだ
ローガン
何をしているのだ
お前は
いやあ…ほらあれだ
俺が迷宮の者に
危害を加えられない
契約あったろ
だけどマリーちゃんなら
危害を加えられるって
穴があることに気付いてな
ハードSMに興じてたら
こうなった
どれだけ
ハードなら
首以外全て
失うというのだ
大方マリーと
鬼ごっこをしている
うちに迷宮の外れに
迷い込み魔物たちに
やられたところを
這々の体で帰ってきた
というところであろう
予測が
的確すぎる！
実は見てたんじゃ
ねえか？

それより魔力をくれてやるからさっさと身体を治せ
え？いいのか？
お前が迷宮の守衛として十分な力を持っていることはわかったしな
やっぱり見てたんじゃねえか
そんな暇はない
ただお前を試せる状況になる条件を整えておいただけだ
余計タチが悪いわ！
巻き添えでマリーが死んだらどうするつもりだったんだ
死なんマリーに呪いがかかってることはわかるだろう？
ああ…どんな呪いかはわからねえけどな
俺がかけた不死の呪いだ〝マリーは大人になるまでけして害されず傷を負うこともない〟
無論俺の力の及ぶ範囲の話だが…
？
ほぼ無敵みたいなもんじゃねえか！

それって
マリー自身は
知ってたのか？
そういえば
本人に伝えた
ことは
なかったな
ねーねー
なんの
おはなし？

…やっぱり
マリーちゃんは
天使なんだなあ
悪魔のくせに
いいのか
その評価は
いいんだよ
それで
ウンウン

マリーちゃん
マジ天使！
ぴしっ

悪魔にとっての"天使"はただの敵って意味じゃねえ
眩しさに焦がれながら決して手の届かぬ存在だ
だが彼女もいつか汚れ朽ちていく運命…
数千年生きる俺にはあっという間だ
ならばたまにはその様子を見守るのも悪くない

新しい性癖に
目覚められるかも
しれないしな！
よくわからんが
ロクでもないことを
言ってるのだけは
わかるぞ
?
Step33 End

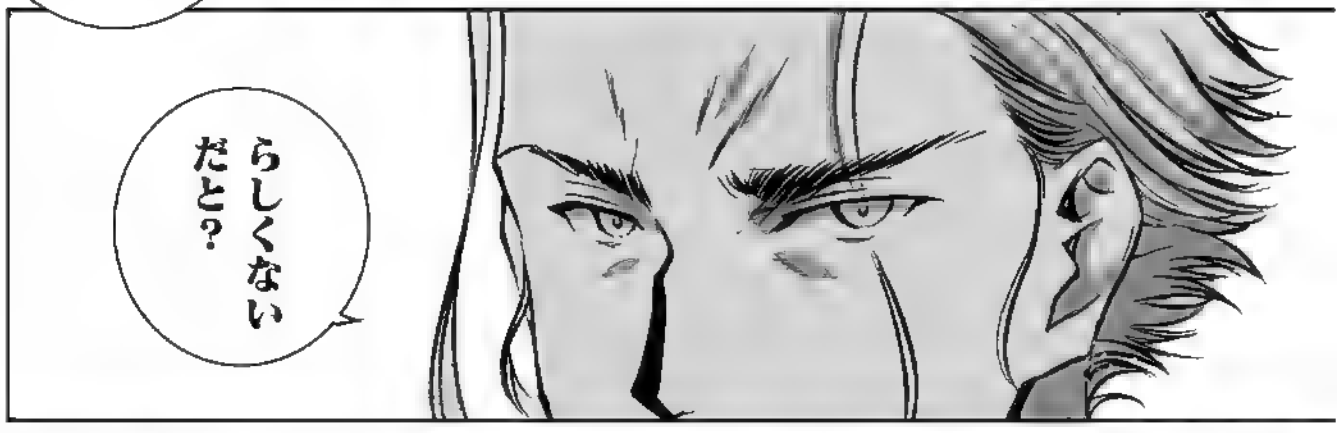
お師匠様！
どうか
どうかお考え
直しください！
ならん
これはもはや
決定事項だ

しかし宗教国家（ウファニス）に
手を出してはならぬと
言ったのは他ならぬ
お師匠様では
ありませんか……！
くどい
それは
現在の話だ
戦力が整えば
いずれは
戦いを挑む
それが
多少早くなる
だけの話だ

これ以上
話すことはない
お前は部屋で
待機していろ
……
Step.34

ねえオウル…
…スピナじゃないけど
私も上手くいくとは
思えないよ…

…今のオウルは
なんていうか…
…オウルらしくない
…そんなに
苛立って感情的に
なってるなんて
オウルらしくない
なんでも冷静に
計画を立てて
無駄なことなんて
一切しないのが
オウルのやり方
じゃない


らしくない
だと？

知った風な
口を利くな
!?

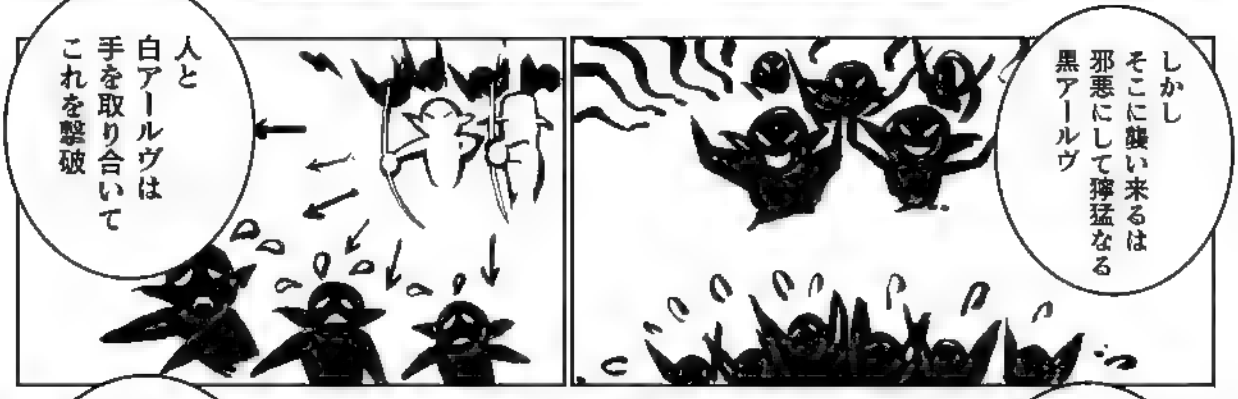
俺は何も
変わってはおらん
元々
目指していたのは
『全て』
…あらゆる物を
この手に収める
絶対的な『力』だ
……
あの時さ…
抱きとめてれば
ユニスは無事だった
かもしれない…
ってそう思ってる？

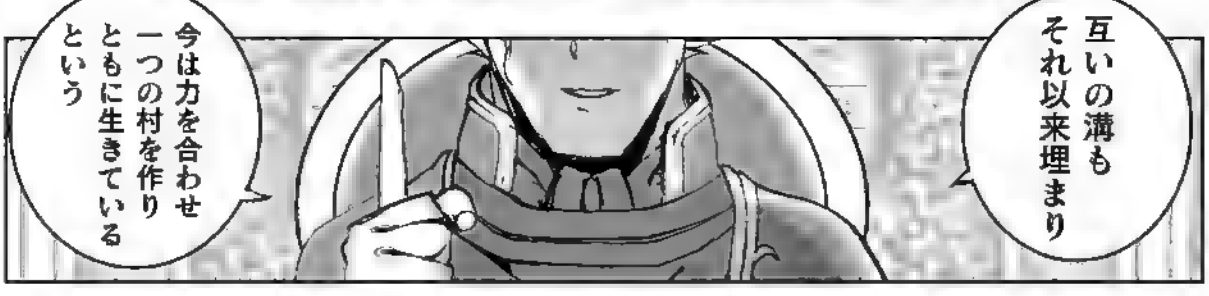
…そんなものはただの結果論だ
俺の考えは変わらん
それを言うならあの時点でザイトリードを圧倒できるだけの戦力がこっちにあればよかっただけの話だ
どうもお前たちは俺を暗愚か何かかと思っているようだな
言っておくが俺はユニスひとりの生死にこだわっているわけではないし勝算のない戦いをする気もない
まだまだ戦力が足りんのはわかっておる今すぐラファニスを攻めるわけではない
エレンを呼べ白アールヴの件で話があると伝えろ
…んわかった

お前は感謝されているらしいぞ
感謝？

金糸の如き髪と絹の如き肌を持つ麗しの姫
白アールヴのセレス
木肌の如き茶の髪と木の葉の如き緑の目を持つ勇猛なる森の民
イーヴァン

愛し合う
二人はしかし
種族の壁に
阻まれ結ばれる
ことあたわず


しかし
そこに襲い来るは
邪悪にして獰猛なる
黒アールヴ
人と
白アールヴは
手を取り合いて
これを撃破


互いの溝も
それ以来埋まり
今は力を合わせ
一つの村を作り
ともに生きている
という

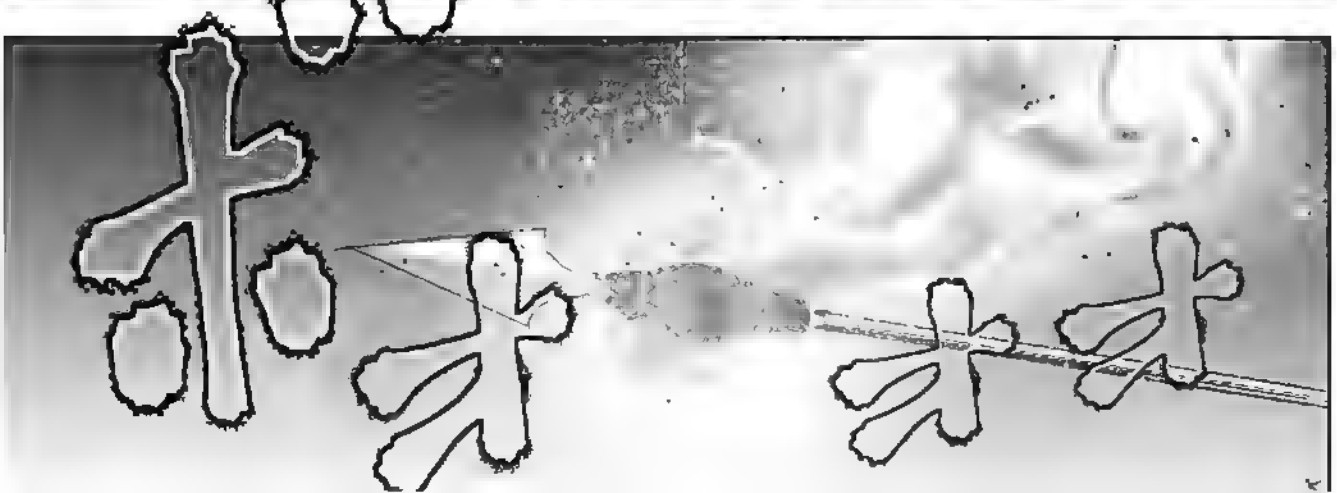
・・・
・・・ほう

…酷いです！
目に物見せて
あげましょう！
ばーん!!
ああミオ
我が友よ
復讐に手を
貸してくれると
言うのか？
勿論ですよ
エレンさんの
敵は私の敵です
がしっ

ですが敵は精強
我が黒の氏族の
全力をもってしても
敵わなかった相手
如何にして
戦いましょう？

人間どもや
妖魔の兵を
出してもいいが
ミオが
力を貸すなら
話は早い
お前たちが
了承するなら
労せず勝ちうる
方法が一つある
その方法
とは？

焼き討ちだ
ウァァァ
キャー



放てぇ！
はははは！
いいぞ！
燃えろ！
燃えろおお！

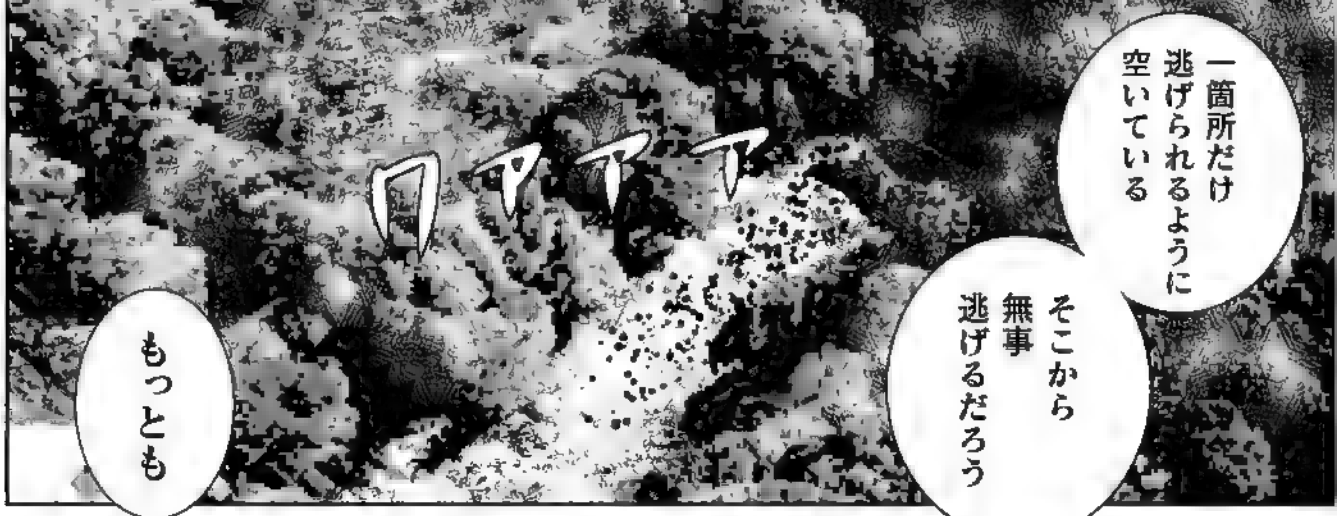
ゴオオオオ
…

うわああ
キャアアア

ワアアアア

しかし主殿いいのか？
キャアア
白アールヴは生け捕りにせよとのことだったがこの火の手では助からんぞ

問題ない
火は奴らの村を囲むようにつけているが


一箇所だけ
逃げられるように
空いている
そこから
無事
逃げるだろう
もっとも

その先こそが
本当の地獄だが
本当の
地獄とは？

誰だ！

ローガンを
配している

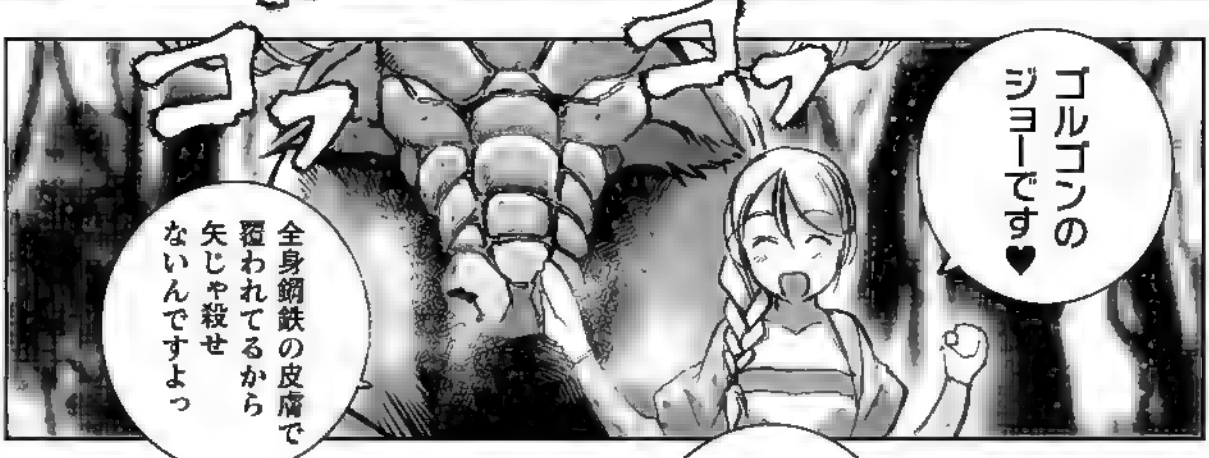
なるほど
キラ
キュッ
ヒィ
やはり
来たか
…貴様らは
来るのでは
ないかと
思っていたぞ
ギッ

…森の民
そして
白き姫君よ！
そちらこそ
やはり生きて
いたのですね
黒き女帝
エレン……！
二度にわたり
我らが村を
襲ったその咎
今度こそお前の
死をもって
償わせてくれる

それは
こちらの
台詞だ
我が同胞を
殺した報い
今こそ味わう
がいい！
あ 話終わり
ました？

じゃ
いきまーす

ガルル

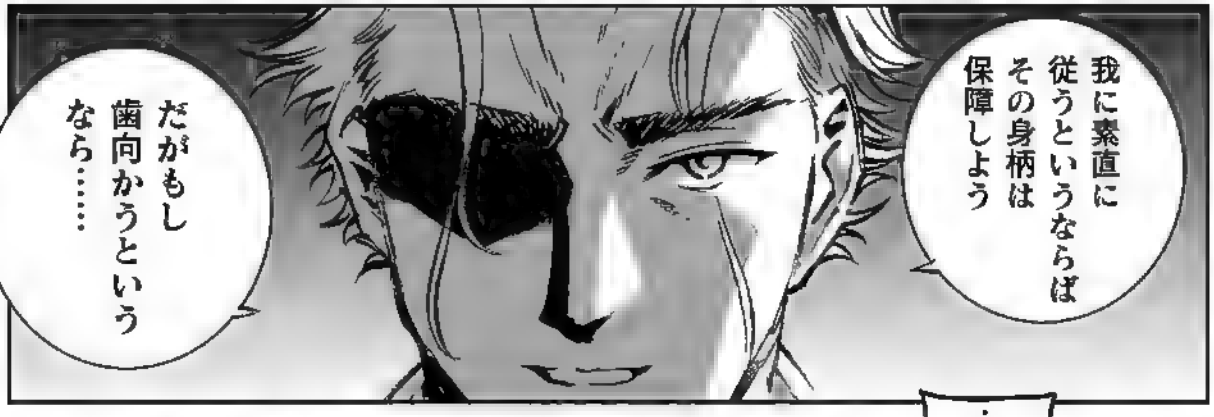

ゴルゴンのジョーです♥
全身鋼鉄の皮膚で覆われてるから矢じゃ殺せないんですよっ
ゴ
ゴ

…ミオ
貴殿が友でよかったといま心からそう思ったぞ
はい？私もエレンさんと友達でよかったですよ？

さて
これは壮観な
ことだな
言われた通り
種族関係なく
男女を牢で
分けておいたぜ
あの状況でも
幼女たちには傷一つ
つけなかったのは
大したものだな
だったら
もうちょっと
労ってくれよ
旦那！
で主殿
この囚人どもを
どうするのだ？
一人二人で
あればじっくりと
洗脳するなり
調教するなり
いくらでも手は
あるのだが…
…この数となると
やはり人質をとって
言うことを聞かせる
しかないだろうな

森に
住まう者たちよ
我が名はオウル
汝らは
我に負けた
ガヤ
ガヤ
魔王と
呼ばれて
いる者だ
なれば
我が命に従い
その弓を
預けよ
ふざけるな！
誰が
貴様などに！
死んでも
お断りだ
誇り高き
森の民は
悪に屈しなど
しない！
ガヤ
ガヤ
ガヤ
その意気や
よし
…だがお前たちは
何か一つ忘れては
いまいか？
そう
貴様らの
女たちだ

…
…


我に素直に
従うというならば
その身柄は
保障しよう
だがもし
歯向かうという
なら……

…卑怯者め
……
とはいえ

貴様らは
高潔勇猛で
知られる森の民
女と言えど
それは変わらぬ
犠牲を覚悟で
歯向かうことも
考えられる
そこで
貴様らのような
正義の心を持つ者に
とって最も効果的な
方策をとらせて
もらう

人間の男が
歯向かえば
アールヴの女を
罰する
アールヴの男が
歯向かえば
人間の女を罰する
な…！
自分の同胞より
親しい隣人を
罰せられる方が
堪えるだろう？
ふ
ふざける
なッ！
人間が
歯向かったら
人間を罰するのが
筋だろうが！
……
…あ

ああ
まあまう
とおりだ
しかし
そうでない方が
信頼につながれた
貴様らには効果的
だろう…？
…とはいえ女たちは
とばっちりだからな
救済策も
用意してやろう
救済策…？
アールヴが
人間の反乱の
準備を密告すれば
処刑するのは
アールヴではなく
人間の女に
してやろう
逆もまた
同様だ
さすれば
因果応報
正しき者に
災いは降りかからぬ
…というわけだ

男たちは
ようやく理解した
これは人間と
アールヴたちを離反させ
お互いに監視させる
ための条件なのだ

一斉に蜂起(ほうき)すれば
こんな条件は意味がない
…つまり魔王は
人間とアールヴの間に
生まれた信頼を
試しているのだ

そして一斉蜂起できるほどの
「真の信頼」は二種族の間には
芽生えないとオウルは
踏んでいた
…かつて奴らが黒アールヴに
襲われた時 団結できたのは
それしか生き残る道が
なかったからだ

しかしいくつか
生存の選択肢がある場合
それは成り立たない
価値観も寿命も
立場も種族も違う
これだけの人数…
ひとり残らず同じ意見に
達することは不可能

これで男どもは
当分奴隷として
扱えるだろう
お互いに監視し
あってくれるはずだ

大衆を
処理したら
次は頭

セレスと
イーヴァンの
番だ

Step34 End

Step.35

…お前は
今の自分の
立場がわかって
いるのか？
勿論（もちろん）です

あなたたちは
卑劣にして邪悪
恥知らずの
人でなしです
今すぐ己の
所業を恥じ
私たちを解放
しなさい

恥知らず
か…
…確かに
そうかも
しれぬ
しかし
人間などと
いうものは
一皮剥けば
皆同じ

貴様の愛する
あのイーヴァン
という男も…
いや
アールヴ
でさえも
本質は
変わらん

ふざけないでください！
イーヴァンはあなたとは違います！
彼は強く優しく
誰よりも
勇敢で高潔です
では証明してみせよ
…？

俺は愛などというものを信じてはおらんそれはただの肉欲に付随するまやかしだ
真の愛などというものがあると言うならそれを証し立ててみせろ
さすればお前たちの正義を認め解放してやろうではないか
…どうすればよいのです

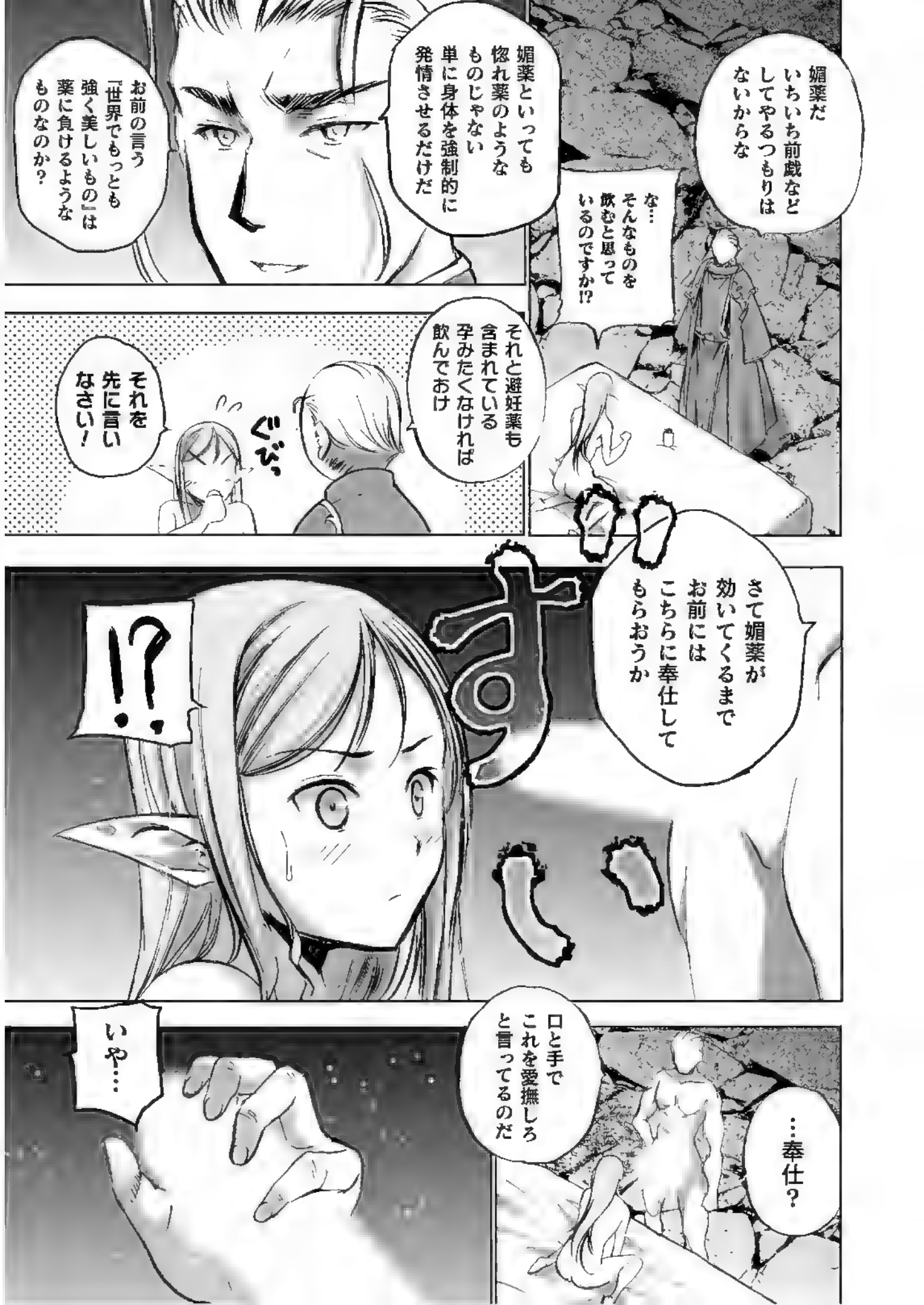
一週間
お前を犯す
穢し
辱め
善がらせ
屈服させる
それでも
なお変わらず
愛を持ち続け
られたら
それは
真の愛と認め
貴様らを解放
してやろう
……
なんて
卑劣な男…！
もしその
提案を受け
なければ？
もう二度と
お互い会う
こともできず
死を迎えるだけだ

いいでしょう
しかしこの身は
すでにイーヴァンの物
私の一存で
決めるわけには
いきません
イーヴァンに
一度会わせなさい
彼も承服すれば
その勝負を
引き受けましょう
よかろう
セレス！
イーヴァン！
では
お前にも
条件を
説明しよう

なんだと…
ふざけるな
あああああ！
貴様それでも
人間かああ！
そんなことは
絶対許さん！
ならば
二人とも
死ぬだけだ
やめて
イーヴァン！
私はけして
悪に屈したりは
しません

なぜなら
私の心は
貴方の物なの
だから
そう
でしょう？
セレス…
セレス
邪悪なるものに
どれだけ穢されようと
君の輝きは少しも
衰えたりはしない
変わらぬ愛を誓う
ええ あの根性の
ひね曲がった陰険な
魔王に思い知らせて
やります
この世界で何が
もっとも
強く美しいもの
なのかを
セレス…
イーヴァン…
はい
そこまでだ
ぶほっ
セレスー
さっさと
いけ
では
一週間後を
楽しみに
していろ

ガシャン
さてでは
早速相手をして
もらおうか
その前に
これを飲め
これは
なんですか？


媚薬だ
いちいち前戯などしてやるつもりはないからな
な…
そんなものを飲むと思っているのですか!?
媚薬といっても惚れ薬のようなものじゃない
単に身体を強制的に発情させるだけだ
お前の言う『世界でもっとも強く美しいもの』は薬に負けるようなものなのか?
それと避妊薬も含まれている
孕みたくなければ飲んでおけ
ぐびっ
それを先に言いなさい!
さて媚薬が効いてくるまでお前にはこちらに奉仕してもらおうか
!?
…奉仕?
口と手でこれを愛撫しろと言ってるのだ
いや…

早くしろ
太い…彼と全然違う…
く…
!?
ええい
まどろっこしい
んんー!
歯を立てるなよ
立てたらその分
イーヴァンの身体に
刃を立ててやる
……
んぐ
ん…!!
手はそのまま
一定の速度で
動かせ

舌は下から上へ
満遍(まんべん)なく
這わせるのだ
こんな
大きいもの…
口に収まり
きらない…
んっ
んっ
ペロ
ペロ

…下手だな
まあ良い
勝手に
楽しませて
もらうぞ
んっ
んっ
ゲッ
ゲッ

!?
んんっ
んふうっ
出すぞ……！

んぐ…
ん…！
しっかりと
飲めよ
ビュルルッ
ビュルルッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクン
ビクッ

に…苦い
生臭い…
なんて量なの…
しっかり飲めと
言っただろう
まあ良い
どうせ後で
嫌でも飲む羽目に
なるのだからな
さて媚薬も
回ってきたようだ
そこに横になって
股を開け

んあ
あああ！
あ
ああ

あ
ムッ
ムギュッ
いくぞ…
受け止めろ！
ドピュ
ドピュ
ドピュ

や…やっと
終わった…
これで
休めるわ…
ゴロン
ギャッ
え…！
ちょ…

次は後ろから
いくぞ
ひあぁっ！
な
なんで!?
まだ
まだ
するの…
ですか…
んああ！
異なことを
言う
「七日間
お前を犯す」と
言っただろう
まだ一刻も
経っておらんぞ
そんな…
冗談でしょう?

冗談なものか
俺の精力は
無尽蔵だ
きっちり一週間
八十四刻（168時間）
犯しぬいてやる

Step35 End

Step.36

ズチュ
ズチュ
ズチュ
極度の疲労で
視線は定まらず
思考も千々に乱れ
まとまらない
彼女にできることは
高い波が来れば
甘く声をあげて
それを貪り
低い波がくれば
尻を振ってねだる
ただその二つ
だけだった

あぁ
あぁ
あぁ
ギッ
ギッ
ギッ
ん
ん

ビクッ!!
ビクッ
ビクッ
ビクッ
あ…ひ…
全身は精液に塗れ
どろどろになり
それを珠ましく
思ったことすら
もはや
遠い忘却の彼方
股間からは
どちらの穴からも
だらしなく
どろどろとした
白い液体を垂れ流し

はあぁ
目はどんよりと
光をなくし
半開きにした口
ヌチュッ
ヌチュッ
胡乱な表情を
浮かべたその姿は
とてもアールヴの
美姫とは思えない
ものだった
ギッ
ギッ
ギッ

どぷどぷと胎内に
吐き出される
温かい感触に
彼女は一際
高い波を感じ
それが
何を意味するかも
もはや考えることが
できず
本能の
命ずるままに
高く声をあげ
快楽を貪った
ただただ
次をねだるように
腰を振るばかりだ
ドピュ
ドピュ
ドピュ

ああ…いつまでも
注がれ続けて
肌から精液が
にじみ出て
しまいそう…
ペロ
チャ
クチュ
クポ
おぞましいのに
この汁を啜るのが
やめられない
なんて…
ンン
グポ
グポ
ンぶ
グプ
大量の魔力を
帯びた精液は
それだけで十分生き
いけるほどの栄養分を
含んでおり 量も
たっぷりとある
そんなに
美味ければもっと
くれてやるぞ？
ポ

精液で腹を満たせと
最初に言われた時には
怒りよりも
絶望に打ちひしがれた
ものだったが
ゴクゴク
飲まず食わずで
一週間生き延びる
ことなどできない
不承不承
口にするうちに
味にはすぐに慣れた
注ぎ込まれ
はあはあ
あぁ

むしろ今では
美味しいと
さえ感じる…
あああ
ぬおおおお

オウルを感じさせれば
感じさせるほど大量に
濃密な精が出てくるので
セレスは熱心に
奉仕するようになっていた
ふぁあ
ゴゴゴ

んふぅ…
はあ
はあ
はあ
はあ…
はあ
はあ
そろそろ約束の一週間が経つな
じゅぽ
じゅぽ
じゅぽ

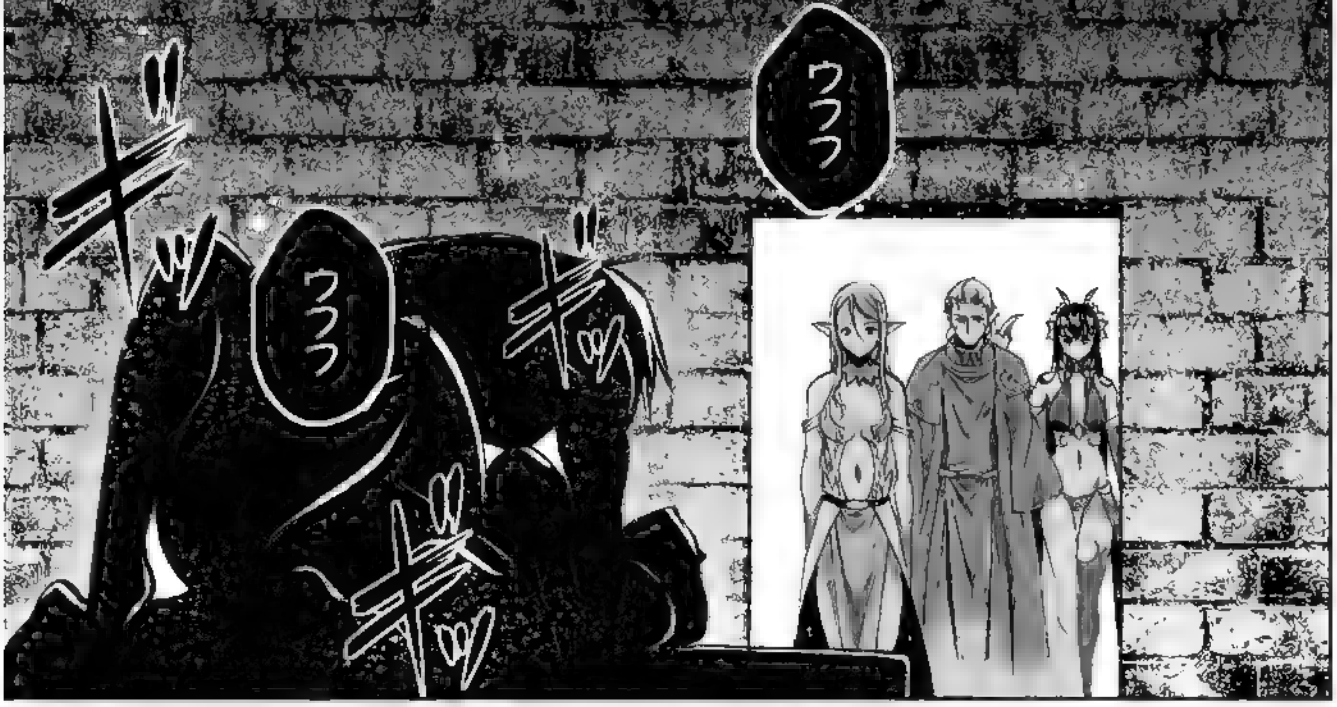
いいのか？
イーヴァンが待っているぞ
…
イー…
ヴァ…ン…
私…は…
イーヴァン！

私はあなたに
届してはいません…！
イーヴァンを皆を解放してください！

愛しい男の名ひとつで我に返るとは…さすがアールヴ
ただ二人を愛することにその生涯のほとんどを費やす種族だけのことはある
良いだろう俺の負けだイーヴァンに会わせてやる

驚いたなまだそれほどまでの力を残していたか
はー
はー

あれー？
ご主人様ー
もしかして
負けちゃったの？
ああ さすが
白アールヴの姫君
一筋縄では
いかないな
七日間
ずっとしてたん
でしょ？
すっごい
ね…
こっちは
三日で陥落
したのに


ウラ
ウラ
キッ
キッ

ギシッ
キッ

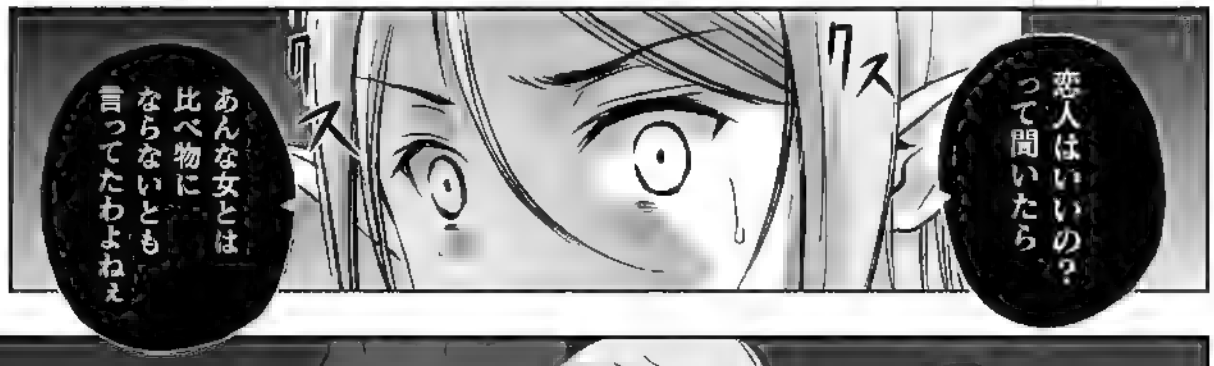
ウラ
ギシッ
キッ
キッ
キッ
ウラ

あ
オウル様だ
イー…
ヴァン…
どう…して…
イーヴァン
目を覚まして！

イーヴァン
私は
勝ったのです！
もうここから解放
されるのですよ！
イーヴァン!!

無駄だよ
!?

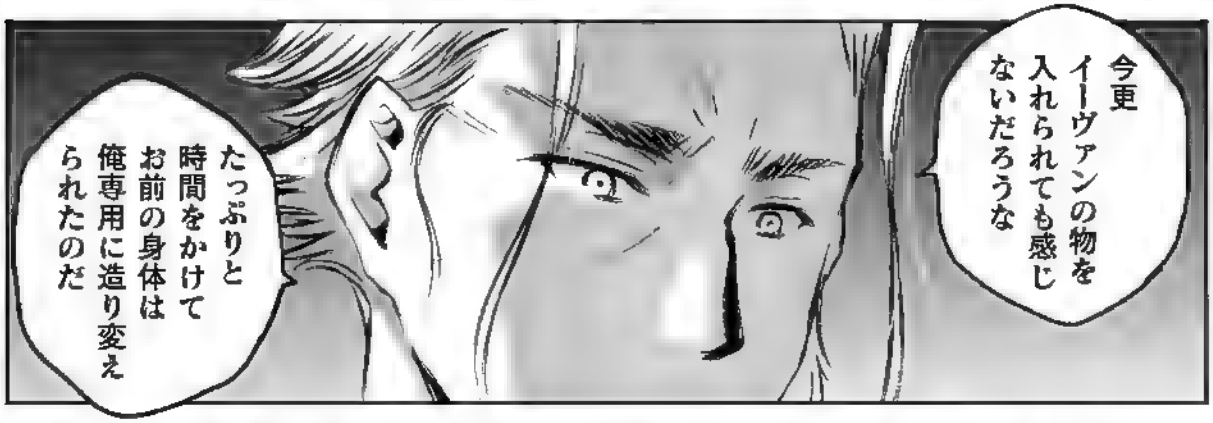
もうこの男は
魂を売り払って
しまってるの
セックスを
続けられるなら
他にはもう
何も要らないって
そう言ったんだよ
クス


恋人はいいの？
って聞いたら
あんな女とは
比べ物に
ならないとも
言ってたわよねぇ
クス
クス

そんな…
スゥ…
!?

んんっ!?
なんで…!
意識してないのに
勝手に…!
パク

お前の心は
確かに快楽に
打ち勝った
しかし
身体は別だ


今更
イーヴァンの物を
入れられても感じ
ないだろうな
たっぷりと
時間をかけて
お前の身体は
俺専用に造り変え
られたのだ

まあイーヴァンは
身も心も淫魔に
打ち負かされた
ようだが
所詮 人間とは
このようなものだ
数百年を生き
たった一人の
伴侶を愛すお前たち
アールヴにはわからぬ
ことだろうがな

ねーご主人様
久しぶりに私も
可愛がってよ
イーヴァンの相手を
私にさせないで
新しく淫魔を呼んだのは
どういうことなのか
聞かせて欲しいな～
お前は
淫魔にしては
どうも色気が
足りないからな
あの男を
落とすのは
無理だと
思っただけだ
ぼふ
ぼふ
む 言ったな？
色気がないかどうか
確認してもらおー
じゃない！
そういう
即物的な対応に
色気が足らんと
言っているんだ
もっと
間接的に誘惑
できないのか？
……
不思議な二人だわ…
淫魔と召喚主という
間柄でありながら
なぜ恋人同士のような
振る舞いができるの…？
セレス
!?

俺ならば
わかってやれるぞ

この身は既に
人をやめた
アールヴには
及ばぬが数百年を
生きることもできる
俺ならば
お前の気持ちを
わかってやれる

差し出される手を
とる以外にセレスには
道がなかった

それがオウルの
教いた道であることは
頭では理解している
しかし…

一人で虚勢を
張り続けるには
彼女は他者の
ぬくもりを
知りすぎていた

そうして森の民と
白アールヴたちは
その絆を完全に
断ち切られ
共にオウルの配下と
なったのだった

おうる
さま

Step36 End

主殿
おかげで我らの悲願を果たすことができました
今日はお別れの挨拶をしに参りました
うむ もともと白アールヴを見つけるまでの契約だ
契約の呪いは既に解いた
こちらこそお前たちの働きに感謝する
なんと…！勿体なきお言葉…！
エレンさーん！

ヒドイです！
私に内緒で
出て行こうと
するなんて！
がばっ
おお
ミオ殿
すまない
いざとなると
言い出し
にくくてな
エレン
さん…
ミオ殿にも
世話になった
特にセレスを
捕えるときには
エレンさえ
よければお前も
ついていっても
よいぞ？
ろろ
え!?
ナデナデ
で…でも
家畜や魔獣の
世話もありますし
それを放り出しては
他の生贄の娘や
インプにお前が
仕込んでくれたから
問題あるまい？
エ…
エレンさん
せっかくだ
ここはお言葉に
甘えさせてもらおう
ではないか

さよーなら〜
ポツーン
……

…ずいぶん
寂しく
なっちゃったね…
……

何を
馬鹿なことを
言っている
人は増え
仕事も増えた
この時の為に
お前を召喚
したのだ

もっと
しっかりと
働け
ガッ
ガッ

スッ

……

…はあい

スピナが
姿をくらませて
何カ月経った
だろうか

彼女の行方は
ようとして知れず
その真意も
不明なまま

オウルも
捜索を
打ち切っていた

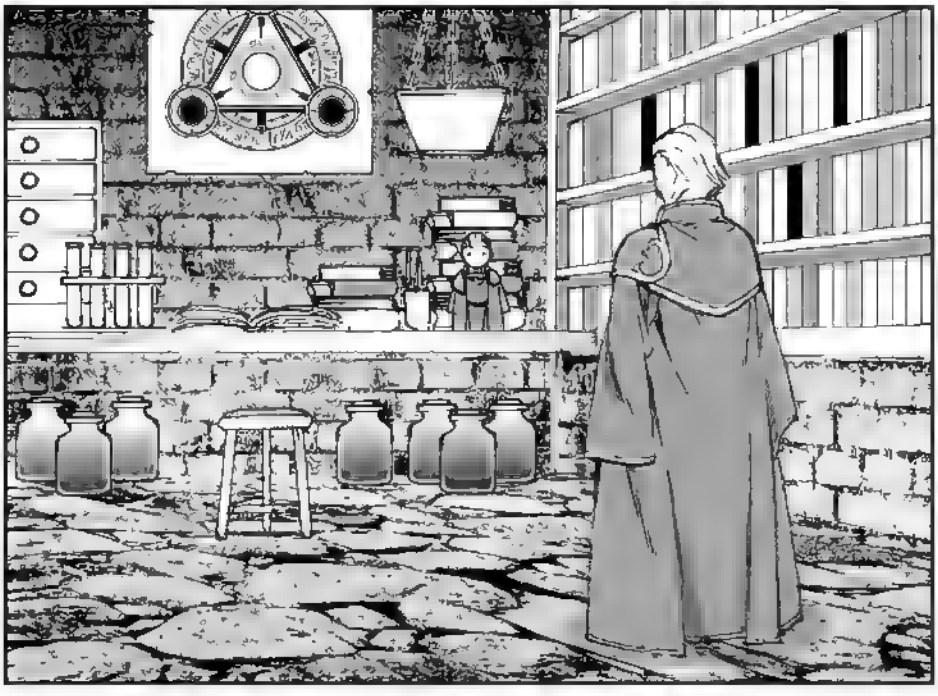
彼女にかけた
呪いは無理に
解こうとすれば

彼女自身の命が
危ぶまれる
類のもので

迷宮の秘密を
他人に
漏らすことは
まずできない

ギィィ

かといって
彼女本人に迷宮を
踏破するほどの
実力もない



その才能と今まで
魔術を教えた労力は
勿体ないところだが
彼女が特定の
仕事に従事していた
わけでもなく
いなくても
迷宮は回る

…って説明して
スピナの捜索
諦めたフリしてる
けどさあ…
私には彼女(スピナ)を
巻き込まない為
って風に見えるん
だよネ…
――戦力は
増えている
エレンたちに
若干劣る
とはいえ
白アールヴたちの
精兵が何十人と
手に入ったから
兵力的には問題ない
いくつも
国を落とし
奴隷や魔物を
増やし
洗脳した
娘たちも多い

しかしオウルは
以前のように

ひとりひとり
名前を覚え 近くに置く
ということはしなく
なっていた

セレス以下の
アールヴや森の民の
大半はオウルに
忠誠を誓うように
なったけど…

私は
彼らの
名前すら
知らない…

ナジャたちのパーティは
そういった新しく
増えた部下の訓練を
するのに手一杯で
あまり顔を見なくなった

ローガンも
新しく呼び出された
レッサーデーモンたちの
取りまとめとして
迷宮の警護に
あたっている

変わらずに
オウルの側に
いるのはリルと
スピナがいなく
なってから
彼にべったりと
張りつくように
なったマリーだけ
・・・
ん・・
じゃあ
リムとラルは
第三階層の
魔獣たちの様子見
シルケと
スーリヤは
第四階層
ロリカとナナイは
第一第二階層の
見回りを…
はい
男を陥落させる為に
新しく呼んだ
サキュバスたちは
いまやリルの部下だ
……

しかし
彼女たちと
リルは何かが
決定的に違った
命じたことは
絶対に
違えないし
忠実に働く
しかし
彼女たちは
オウルを信頼して
などいないし
オウルもまた
彼女たちをただの
労働力として
しか見ていない

本来悪魔って
そういうものよね
私っては
悪魔らしくない
私だって
薄々気付いてる

自分が他の悪魔と
決定的に違うように
思えてならない
魔界にいた頃
感じなかった
違和感…
日に日にそれが
強くなってるのが
わかる

!?
この…
警告音…！
まさか…
侵入者!?
シャイア！
最近有力な冒険者は
いないって
言ってたよね!?
第三階層を
抜けたのも
いないよ
他のみんな
どう異常は？
異常なし
こっちも
同じく
オウル
侵入者！
だけどなんか
様子がおかしいの
第三階層を
誰も突破
してない！

ズオン
そのようだな
これは冒険者の侵入ではない
ズオン
ズオン
第四階層の外郭が突破されている
コボルトだな
コボルト？
巣がたまたまうちの迷宮に当たっちゃったとか？
いや違う

コボルトは
鉱山の妖精
坑道を掘るのは
得意だが
地下深くに
巣を作ったりは
しない
これは明らかに
人為的な操作だ

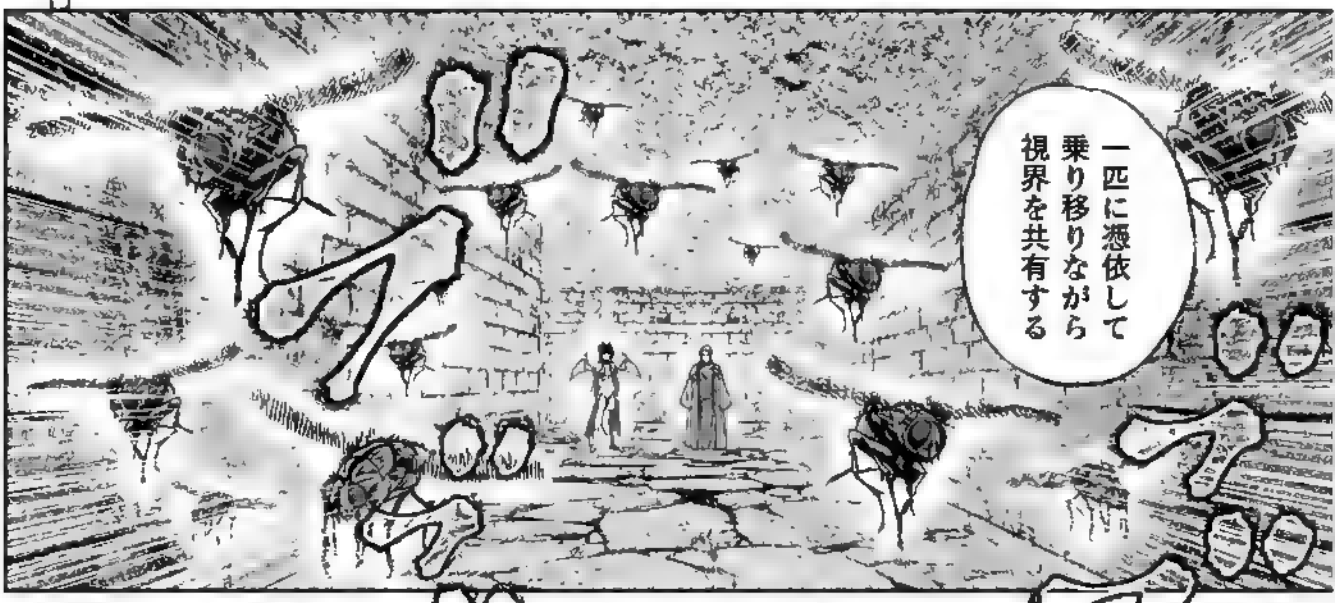
別の
『魔王』の
侵攻だ

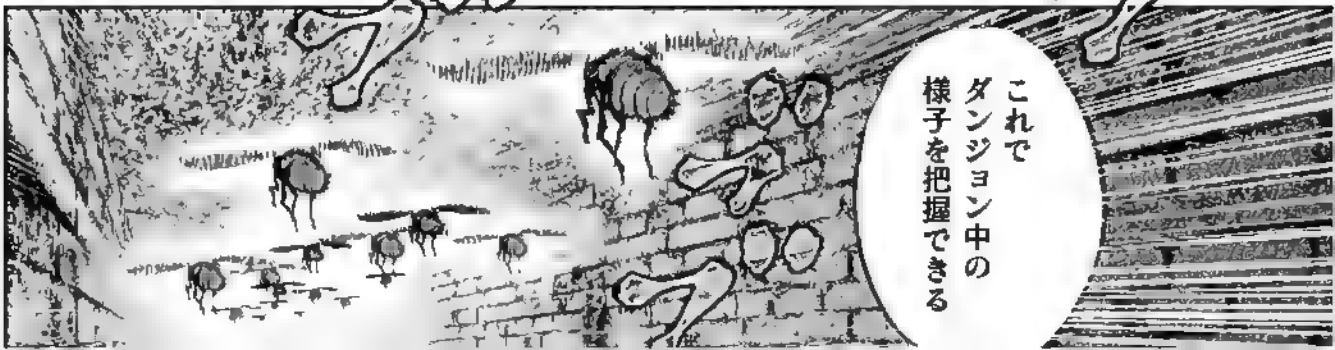
別の…？
ってどう
するの!?
ウィキアたちを
向かわせる？

いやそれは
リスクが大きすぎる
こういうときの対策も
想定はしてある
落ち着け
想定して
んの!?

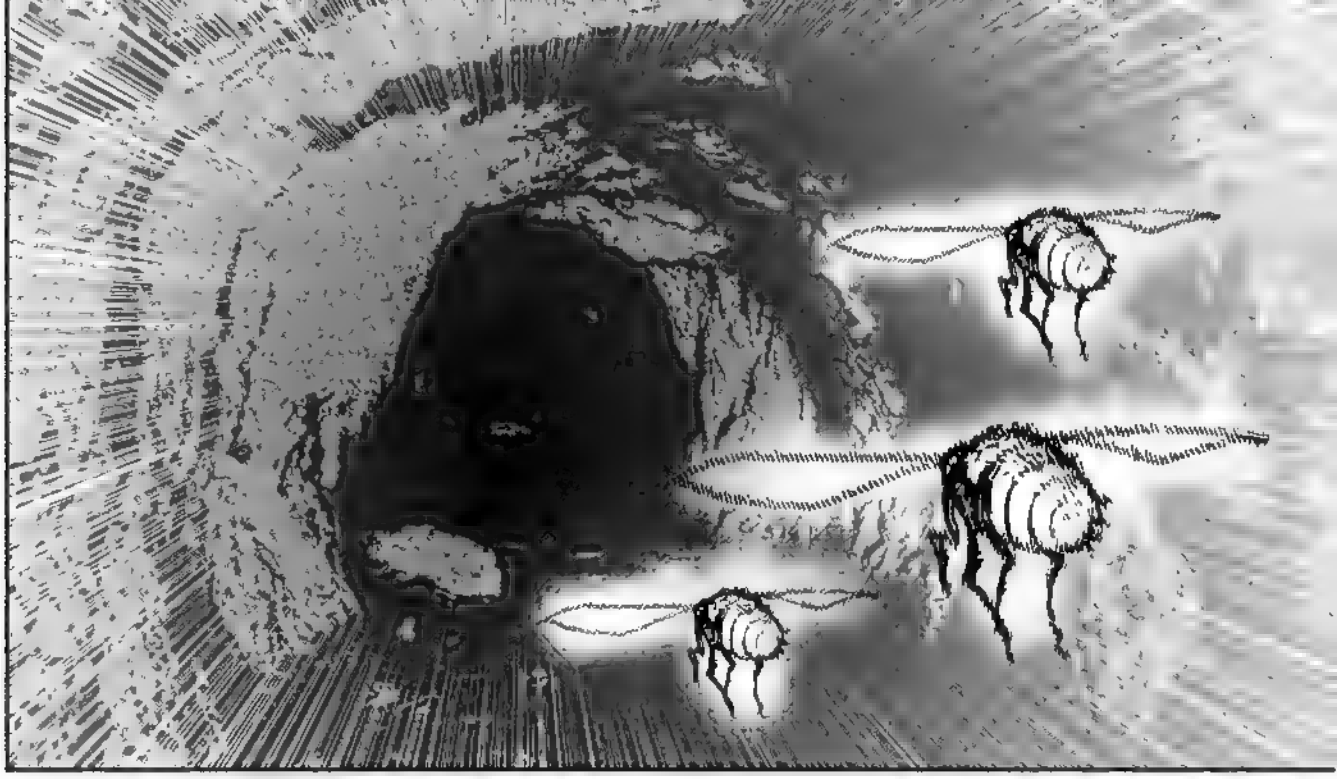
自分がしていることを
他人はしないと
思うのは愚か者だ
当然 俺以外の誰かが
同様のダンジョンを
作った場合の想定も
しておる

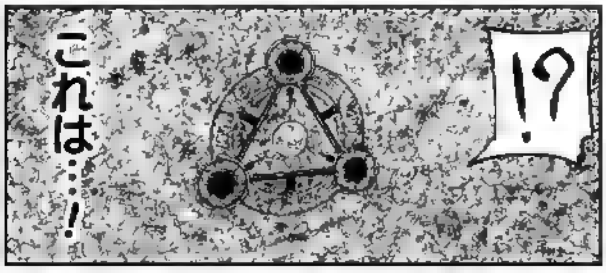
出でよ
ジャイアントフライ
ブオン
ブオオオオ
まずはこいつらで偵察を行う

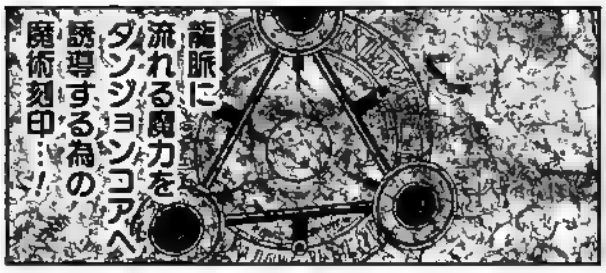

一匹に憑依して乗り移りながら視界を共有する


これでダンジョン中の様子を把握できる

『ジャイアントフライ』は
死骸に湧いた蝿が
魔力に触れるうちに
巨大化したものだ
迷宮内に転がる死体を
食べて土に還したり
妖魔たちの餌になるのが
迷宮の生態系での
主な役割である
しかし
こういった場合には
その行動範囲の
広さとコストの低さ
自由自在に闇を飛び回る
機動能力から
優れた斥候ともなる
リル 中央広場で
敵の侵攻を
把握しながら
ウィキアたちに
情報を中継して
防衛にあたれ
他の外郭も
破られないとは
限らん
わかった




!?
これは…!


龍脈に流れる魔力をダンジョンコアへ誘導する為の魔術刻印…!

やはり…このダンジョンの主はただの竜や並みの魔術師ではないな
しかし…ダンジョンコアは俺の研究の集大成研究課程はとっくに処分しもはや俺の頭の中にしかない

俺以外にコアを作り上げられる者など想像がつかない…

とにかく
敵のコアは
見つけなければ

ジャイアント
フライを分散
させる！

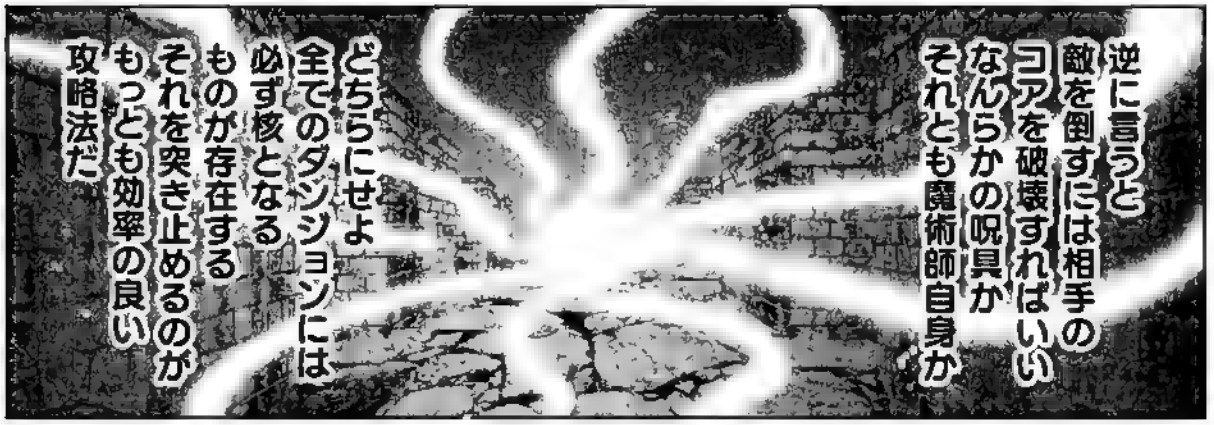
ジャイアント
フライから放たれる
魔力で結界を張るわ

水面に映し出す
地図をもとに
防衛にあたって！

わかった！

了解！

幸運なことに
敵の手札は
コボルトやゴブリン
せいぜいがオークといった
ところのようだ
とはいえ
油断はできない
どんなに戦力で
圧倒できても
ダンジョンコアを
破壊されればそれまでだ
相手はコボルトで
坑道を掘ってどこから
襲撃してくるか
直前までわからない…


逆に言うと
敵を倒すには相手の
コアを破壊すればいい
なんらかの呪具か
それとも魔術師自身か
どちらにせよ
全てのダンジョンには
必ず核となる
ものが存在する
それを突き止めるのが
もっとも効率の良い
攻略法だ

しかし…
なんだ？
この方向
中心部の
方向には
覚えがある…

そうか…！
あの女軍師が俺を嵌めた
あの場所か…！
何者かが偶然
龍脈を掘り当てたの
かと思っていたが
あそこなら確実に
龍脈の位置が判明している
この事実を知る者は
多くない…

コオ
……！
ビュッ
!?
……
今のは…！

Scene37 End

スピナの
仕業あ!?
Step.38

おそらく
間違い
ないだろう

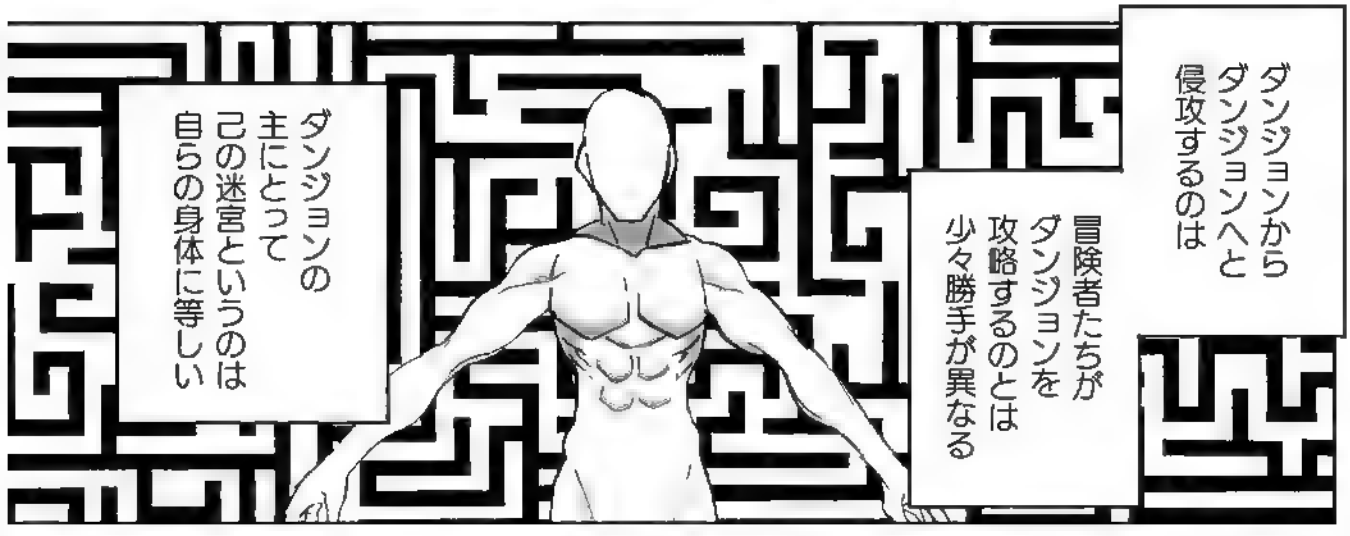
もう
何やってんの
あの子…
はぁ～
オウルの無茶を
止めておいて
そのオウルより
よっぽど無茶するよね
あの子は

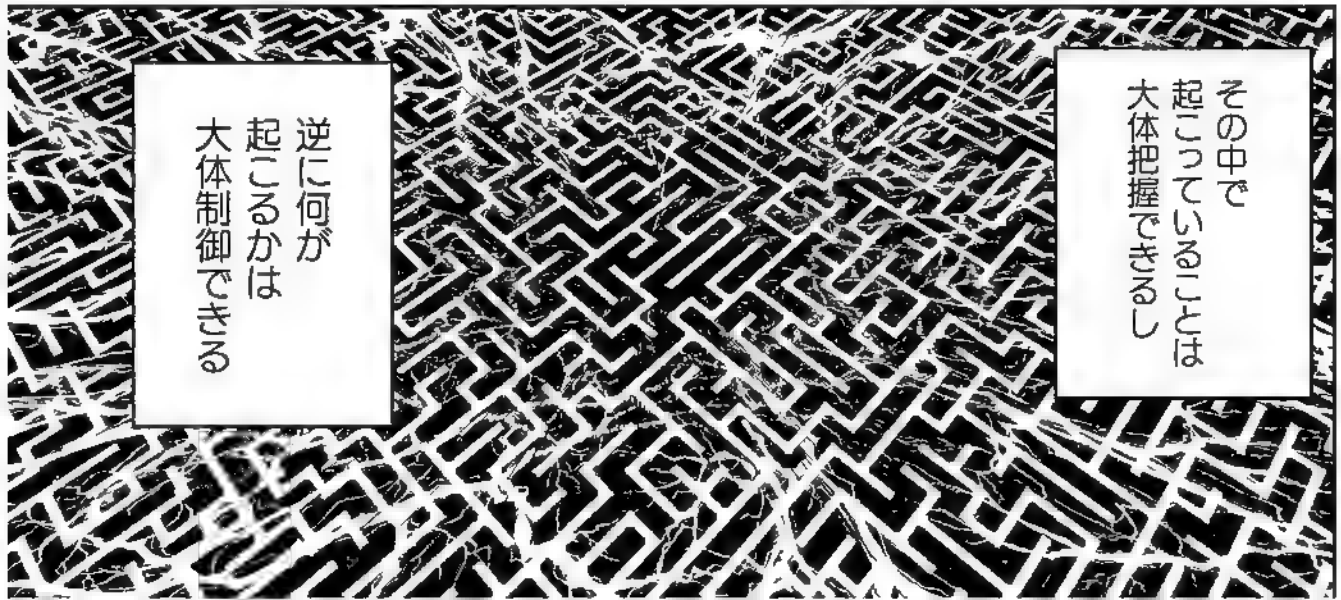
それで
どうするの？
…道筋は大体
わかったからな
侵攻を始める
あれはおそらく
以前スピナが作った
魔喰いスライムの
改良型だろう
問題は
あのスライムを
どうするかだが
なんにも効かない
無敵のスライムとか
いうことはないの？

そんなものは
原理的に
作り出せん
どれだけ
バランスをとっても
何かを喰うように
すればその歪みで
必ず何かに弱くなる
その設定とて
自由自在に
できるわけ
ではない
ある程度の
選択肢の中から
選ぶしか
ないはずだ
…っていうか
スピナに直接
聞いた方が
早いんじゃない？

お前はまた
適当なことを…
仮にも敵対して
奇襲をかけてきた
相手が素直に喋る
わけがないだろうが
…まあ
スライムを
なんとかするよりも
スピナをなんとか
する方が楽そう
なのは確かだ

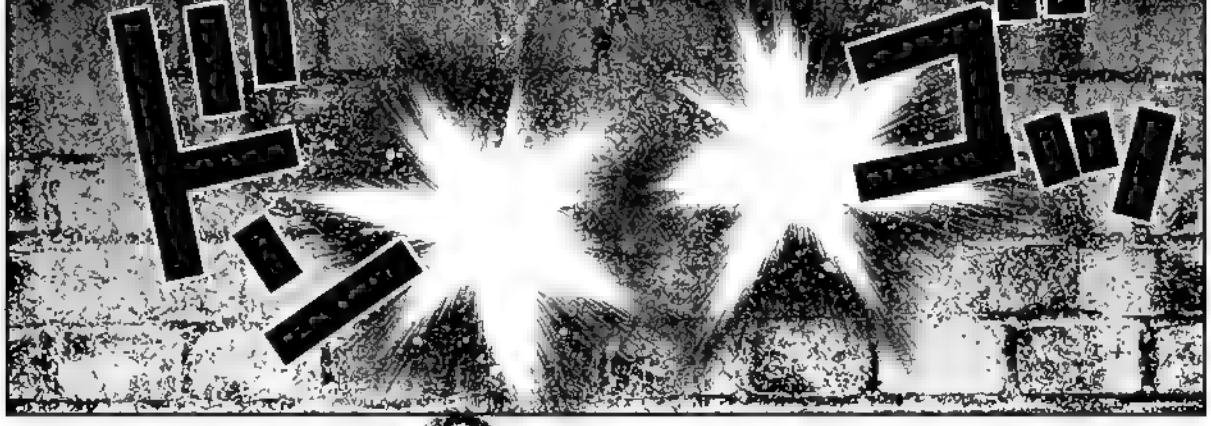
まあ良い
とりあえずは
その路線でいくか
え
ならなんで私
今叱られたの？
準備を
始めるぞ
急げ


ダンジョンから
ダンジョンへと
侵攻するのは
冒険者たちが
ダンジョンを
攻略するのとは
少々勝手が異なる
ダンジョンの
主にとって
己の迷宮というのは
自らの身体に等しい


その中で
起こっていることは
大体把握できるし
逆に何が
起こるかは
大体制御できる

つまり
ダンジョン対
ダンジョンの戦い
とは すなわち
お互いの領土の
奪い合い
身体の食い合いに
等しい
それは国家間の戦争や
ダンジョン探索のような
『お上品』な戦いとは
まるで異なる

グルル
グルル
ガッ
よし陣を敗け！
壁を打ち壊せ！
ガガガ
ドドド
ドド


ドゴッ

ボボボ
わざわざ迷宮を彷徨(さまよ)い敵を倒して進む必要などない

壁や床を破壊し打ち抜き一直線に中心部へと向かえばいい
それがダンジョンマスター同士の戦いというものだ

ズオン

貴様らは
ここを
防衛せよ
はっ

次は東側の
壁を掘れ！
地下水脈に
出るぞ！
ボゴ
ボゴ

出でよ

橋を固定しろ
対岸の壁を
壊せ！
ガッ
ガッ

ガッ
ガッ
ドスッ
ドスッ
ドスッ

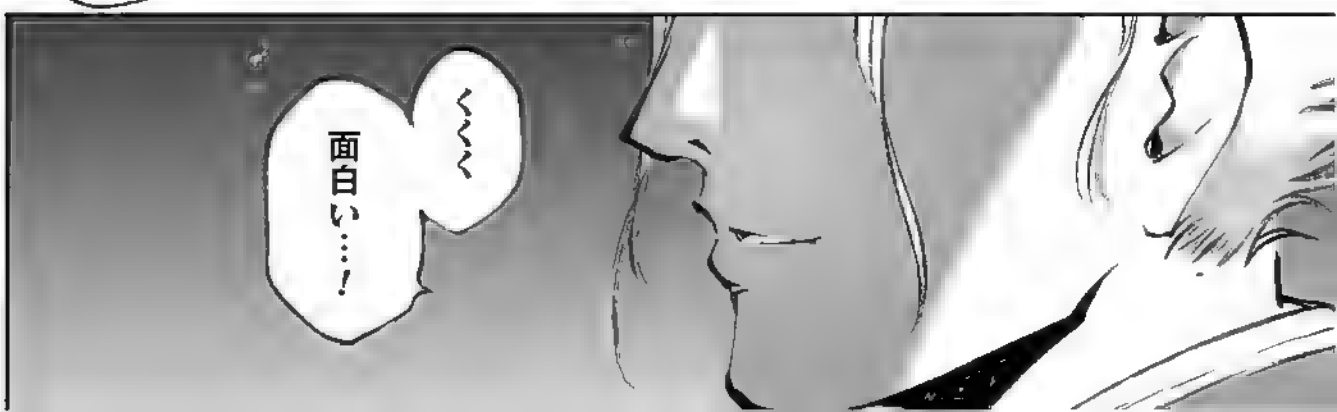
ゴゴゴ…
!?
ガガガ
ドキャ
ドキャ
ドキャ

なんだと…!?
ゴゴゴゴゴ…!!

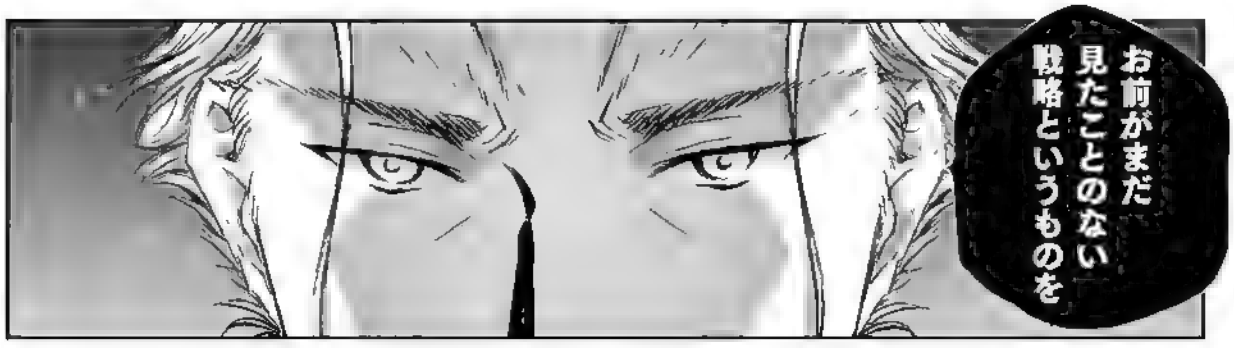
罠…!
馬鹿な
こんな所に
仕掛けるだと…

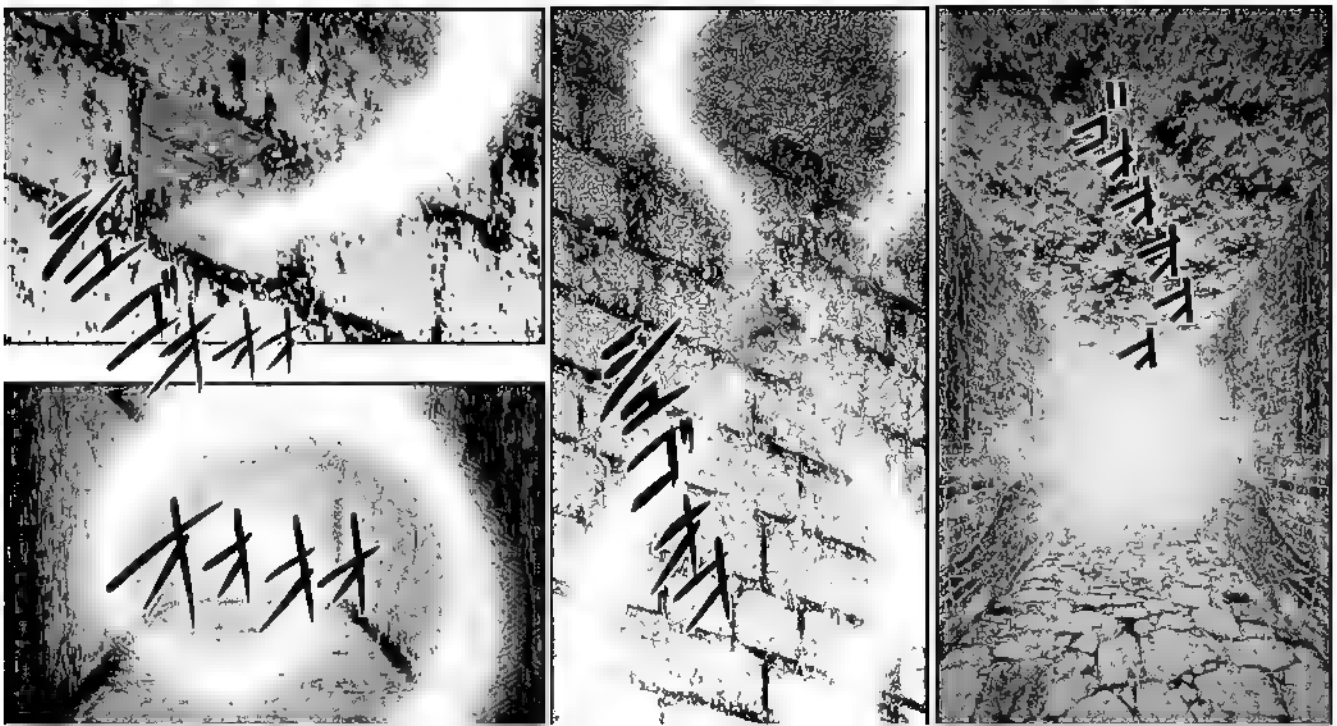
いや…
それ故か…

スピナは俺の性格や
行動パターンを
知り尽くしている
ここは通常の手段では
渡ることができない
だからこそ
スピナは俺がここから
侵入してくると読み
罠を仕掛けたのだ
この分だと
他の侵入路も
読まれていると
思っていいだろうな


くくく
面白い…!

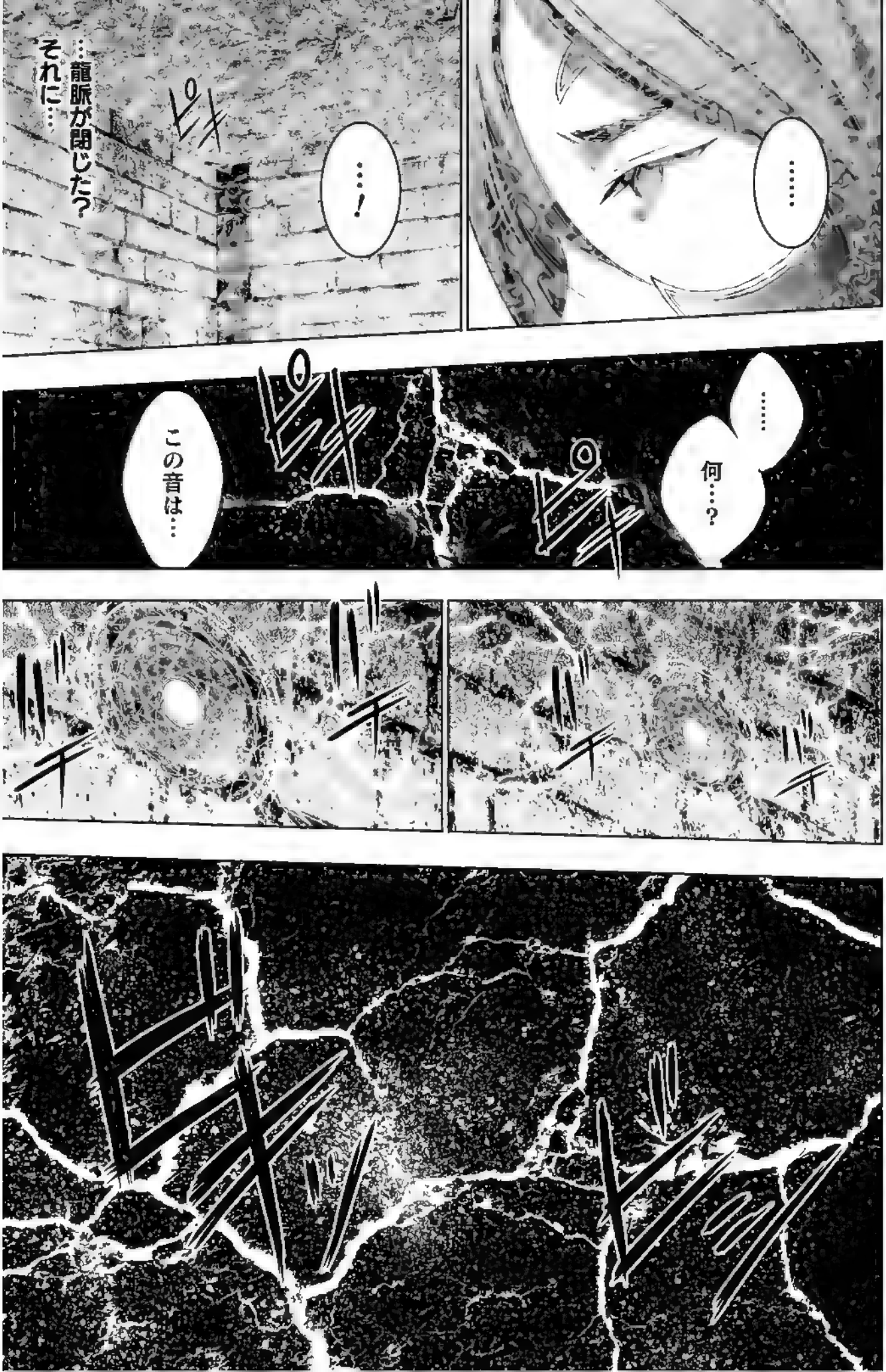
ならば
見せてやろう
スピナ

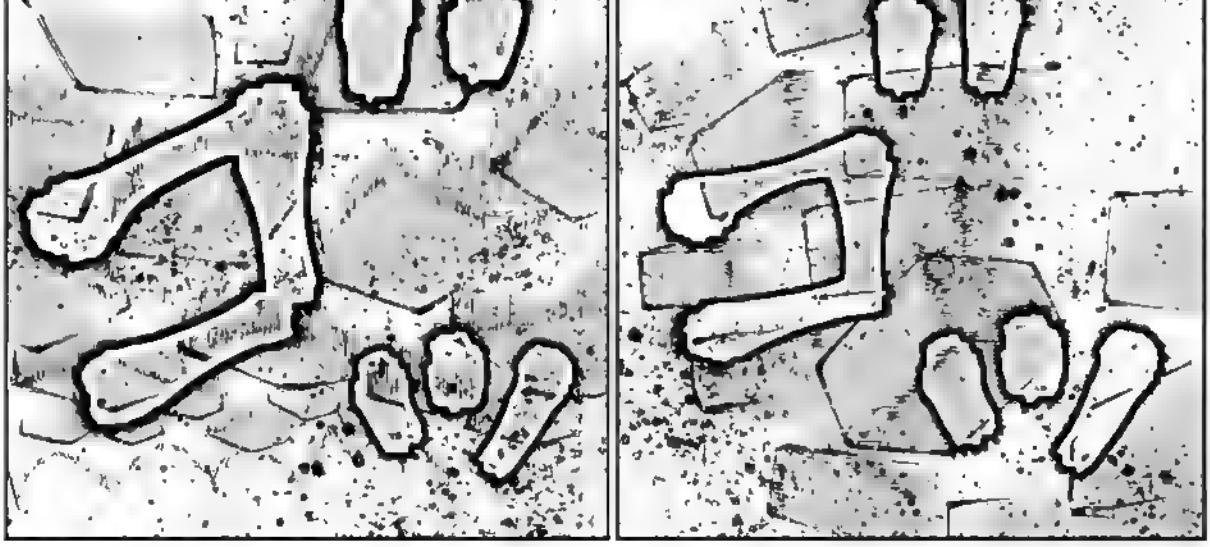

お前がまだ
見たことのない
戦略というものを

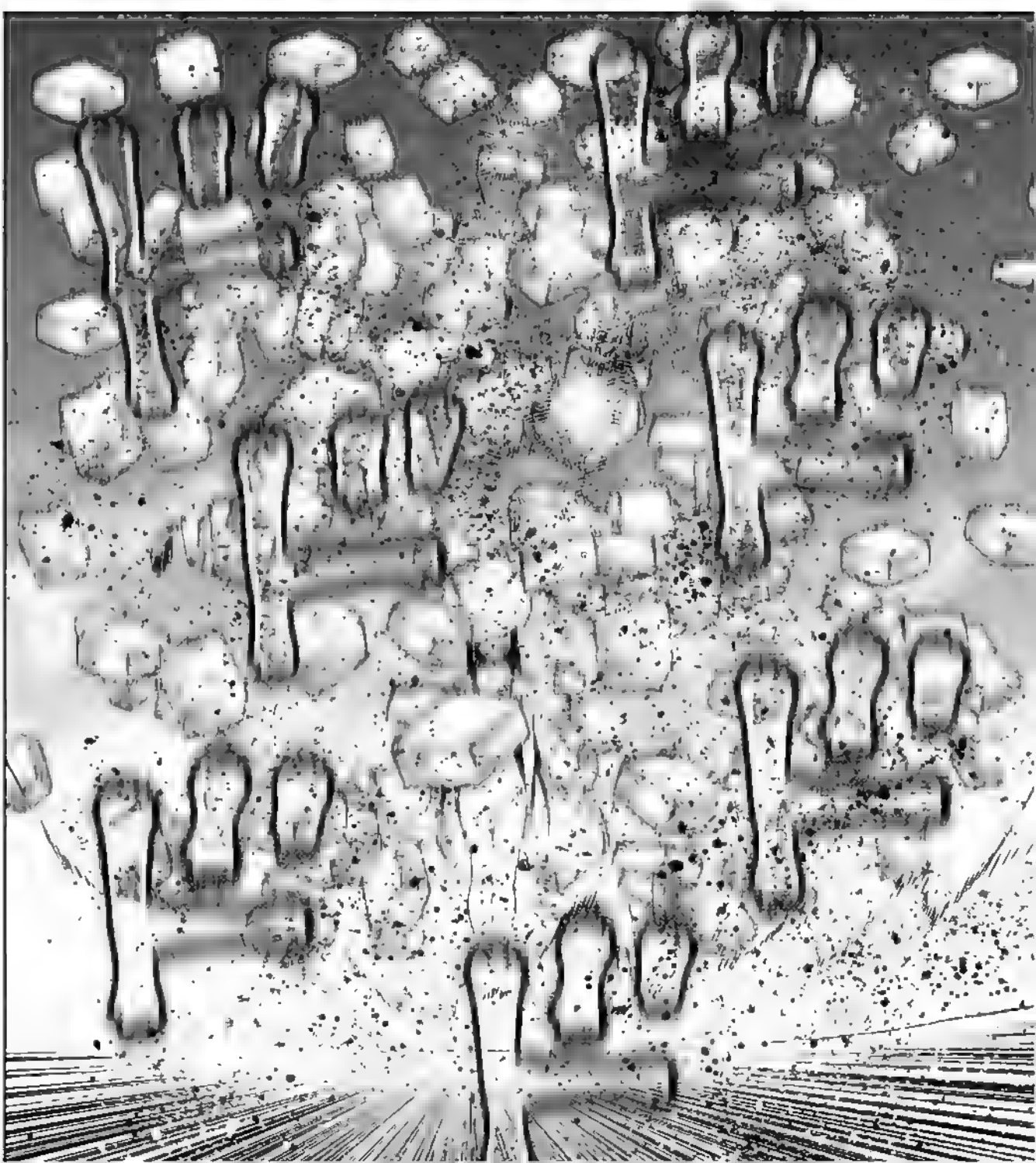

ゴゴゴゴ
ゴゴゴゴゴゴゴゴ
ゴゴゴゴ
ゴゴゴゴゴゴゴゴ

ドン

ドン


……
……！
…龍脈が閉じた？
それに…
ピキ
何…？
この音は…
ピキ
ピキ
ピキ
ピキ





ガラ
ガラ

ガラ
ガラ
ガラ

龍脈からの魔力は通風口を通じて

ダンジョンから中心部に運ばれていた

通風口が紋様によって閉じられて部屋も解体された今

スライムへの魔力供給はほとんど止まるわけだ

そうなればこれ以上迷宮の維持もできずに

スライムが大きくなることもない

出て来いスピナ！

お前の負けだ！

お師匠様…
流石です…
ガ
ガ
ガ

まさか…
これほどまでに
ゴゴゴゴゴ
早く到達なさるとは…

魔王の始め方 THE COMIC 5
End

魔王の始め方

ヴァルキリーコミックス
魔王の始め方 5
THE COMIC
【電子書籍版】

著者
小宮利公

原作
笑うヤカン

キャラクター原案
新堂アラタ

装丁
マイクロハウス

発行
株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル1F
●編集部 TEL 03-3551-6147／FAX.03-3551-6146
●販売部 TEL.03-3555-3431／FAX.03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©Toshimasa Komiya　©Warau Yakan　2019
当ファイルは、ヴァルキリーコミックス『魔王の始め方 THE COMIC 5』
（2019年2月8日　初版発行）に基づいて作成しております。

http://ktcom.jp/

※この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは一切関係ありません。

本作品のご意見、ご感想をお待ちしております

本作品のご意見、ご感想、読んでみたいお話、ジャンルなど
どしどしお書きください！　読者の皆様の声を参考にさせていただきたいと思います。
手紙・ハガキの場合は裏面に作品タイトルを明記の上、お寄せください。

◎アンケートフォーム◎ **http://ktcom.jp/goiken/**

◎手紙・ハガキの宛先◎
〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル
（株）キルタイムコミュニケーション　ヴァルキリーコミックス感想係

ビギニングノベルズ「魔王の始め方」
B2タペストリー
発売決定！
原作小説イラストの新堂アラタが描く
美麗カラーとB2ビッグサイズ！
セクシーなサキュバス・リル＆女英雄ユニスがあなたを誘惑!?
2019年4月末発売予定!
特設予約サイトはこちら!→http://ktcom.jp/goods/001/

BEGINNING NOVELS 話題のWeb小説、続々刊行! 全国書店・通販サイトで好評発売中

「こいつらを見捨ててあたしを殺すか、あたしに従って国を譲り渡すか」

新大陸を侵攻し、砂の国を成長したソフィアに任せるオウル。小さいながらも政を理解する姿に感心するが、まだまだ天真爛漫な娘にオウルはまた振り回されてしまう。そして国交を結ぶため訪れた氷の国ではリル達が捕らえられてしまい、ソフィアが奮闘する！氷の女王や太陽神との戦い、そして回避不能な難題がオウル達に襲いかかる！人気のダークファンタジー、待望の最新作！

魔王の始め方
RULE THE WORLD BY THE DEVIL

全国の書店・各種通販サイトで1〜6巻 大好評発売中!!

【小説】笑うヤカン
【イラスト】新堂アラタ

FIGHTING GIRLS SPECIAL COMIC

コミックヴァルキリー

Web版 コミックヴァルキリー

comic valkyrie

閲覧無料 AD FREE

登録不要 REGISTER FREE

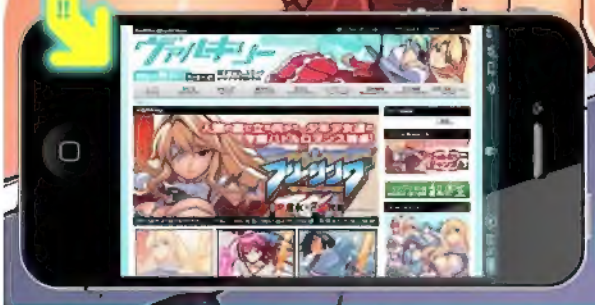
新作書き下ろしコミック、ゾクゾク更新中!!!!!

闘うヒロインが満載!!!!!

バトルあり笑いあり お色気ありで360度、死角なしで全包囲中!!

PCでスマホで無料で読み放題

スマホ版も公開中です!!



今すぐ公式サイトにアクセス!

http://www.comic-valkyrie.com/

Windows・Macを初めとするPCブラウザおよびiPhone・Android端末等でご覧いただけます。

KRS 編集・発行 キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル TEL.03-3555-3431(販売) FAX.03-3551-1208

最新情報はオフィシャルサイトへ コミックヴァルキリー 検索

魔王オウルの策略でぶつかりあう
〝英雄王〟ウォルフと最古の〝真竜〟メトゥス。
地を割り山を砕く死闘の決着は!?
そして黒アールヴの女王エレンの怨讐が
白アールヴの森を焼き払う。
魔王をめぐる愛憎がダンジョンの内外で
さらなる乱を招く第5巻!

HOW TO BOOK ON THE DEVIL THE COMIC 5

comicwork by komiya toshimasa - story work by warau yakan